

70th 受け継ぐ絆、 耕す未来

～仲間と育てる いしかわの食と農～

石川県農協青壮年部協議会設立70年記念史

(平成27年度～令和6年度)



JA YOUTH

令和8年1月

石川県農協青壮年部協議会

石川県農協青壮年部協議会設立70年記念史

受け継ぐ絆、 耕す未来

～仲間と育てる いしかわの食と農～

J A 青年組織綱領

我々 J A 青年組織は、日本農業の担い手として J A をよりどころに地域農業の振興を図り、J A 運動の先駆者として実践する自主的な組織である。

さらに、世界的視野から時代を的確に捉え、誇り高き青年の情熱と協同の力をもって、国民と豊かな食と環境の共有をめざすものである。

このため、J A 青年組織の責務として、社会的・政治的自覚を高め、全国盟友の英知と行動力を結集し、次のことに取り組む。

1、われらは、農業を通じて環境・文化・教育の活動を行い、地域社会に貢献する。

J A 青年組織は、農業の担い手として地域農業の振興を図るとともに、農業を通じて地域社会において環境・文化・教育の活動を行い、地域に根ざした社会貢献に取り組む。

1、われらは、国民との相互理解を図り、食と農の価値を高める責任ある政策提言を行う。

人間の「いのちと暮らし」の源である食と農の持つ価値を高め、実効性のある運動の展開を通じて、農業者の視点と生活者の視点を合わせ持った責任ある政策提言を行う。

1、われらは、自らが J A の事業運営に積極的に参画し、J A 運動の先頭に立つ。

時代を捉え、将来を見据えた J A の発展のため、自らの組織である J A の事業運営に主体的に参加するとともに、青年農業者の立場から常に新しい J A 運動を探求し、実践する。

1、われらは、多くの出会いから生まれる新たな可能性を原動力に、自己を高める。

J A 青年組織のネットワークを通じて営農技術の向上を進めるとともに、仲間との交流によって自らの新たな可能性を発見する場をつくり、相互研鑽を図る。

1、われらは、組織活動の実践により盟友の結束力を高め、あすの担い手を育成する。

J A 青年組織の活動に参加することによって、個人では得られない達成感や感動を多くの盟友が実感できる機会をつくり、このような価値を次代に継承する人材を育成する。

(注釈) 本綱領は、J A 全青協設立の経過を踏まえて「鬼怒川五原則」「全国農協青年統一綱領」の理念を受け継ぎ、J A 全青協創立50周年を契機に現代的な表現に改めるとともに、今後目指すべき J A 青年組織の方向性を新たに盛り込んだものである(平成17年3月10日制定)。

目 次

J A 青年組織綱領

発刊のことば	石川県農協青壮年部協議会委員長 高本 祐輔	2
発刊によせて	石川県知事 馳 浩	3
発刊によせて	石川県農業協同組合中央会代表理事会長 西川 一郎	4
発刊によせて	J A 石川県女性組織協議会会長 廣澤 貴子	5
第 1 章	この10年のあゆみ	7
第 2 章	歴代委員長のメッセージ（平成27年度～）	11
第 3 章	J A 青壮年部の活動	15
第 4 章	主要活動の記録	27
	活動実績発表・青年の主張大会	28
	スポーツ交流会の開催	32
	石川の農林漁業まつりへの参画	33
	営農視察研修会の開催	36
	手づくり看板コンクールの実施	38
	石川県農協青壮年部協議会設立65周年記念事業について	41
	能登半島地震に対する県青協の動き	42
資 料 篇	石川県農協青壮年部協議会の推移	44
	県下 J A 青壮年部盟友数の推移	45
	石川県農協青壮年部協議会歴代委員名簿	46
	石川県農協青壮年部協議会規約	58

発刊のことば



石川県農協青壮年部協議会
委員長

高 本 祐 輔

このたび、石川県農協青壮年部協議会（県青協）は設立70年を迎えました。長きにわたりJ A県青協の活動を支えてこられた歴代の先輩方、関係機関、そして各単組の盟友の皆さまに、心より感謝申し上げます。

昭和31年の県青協設立以来、県内のJ A青壮年部が志を一つに、互いに学び合い、助け合いながら歩んできた70年の歴史は、石川の農業を支えてきたかけがえのない財産です。先輩方の情熱と努力が今日の県青協の礎を築かれたことに、改めて深く敬意を表します。そして、その熱い想いと行動力が脈々と受け継がれ、今の私達の活動を支える力となっています。

私自身、令和元年に公務員の傍ら「半農半X」として委員長に就任し、今年で7年目を迎えました。令和4年に就農してからは、日々、自然と向き合い、作物を育てる中で、農業のやりがいや厳しさを感じています。委員長としての7年間は、多くの出会いと挑戦の連続でした。令和5年には、全国農協青年組織協議会の理事として執行部運営に携わり、全国の仲間と意見を交わす中で、各地が抱える課題や地域づくりの工夫に触れ、自らの活動を見つめ直す貴重な機会を得ました。さらに「農協運動におけるJ A青年組織人材育成研修」では、イギリスやイタリアの協同組合の役割や機能、食料・農業を取り巻く現状、そしてJ Aの位置づけについて学ぶ機会を得ました。海外の現場での学びは、私自身の視野を大きく広げ、J A青壮年部活動の他、地域農業の振興発展を図るうえでの貴重な糧となっています。

一方で、近年は盟友の減少や高齢化、時代の変化に伴う活動の希薄化などさまざまな課題に直面しています。青壮年部の活動をどう活性化し、若い世代に農業の魅力と誇りを伝えていくか、それが今、私たちに課せられた重要な使命です。J A青年組織綱領が掲げる「組織活動の実践により、盟友の結束力を高め、明日の担い手を育成する」の精神を胸に、県内青壮年部の仲間とともに前へ進んでまいり所存です。

この県青協70年の歩みを礎に、次の世代へ夢と情熱をつなぎ、持続可能な地域農業の発展と豊かな地域社会の実現に向けて、これからも歩みを進めてまいります。これまで県青協を支えてこられた全ての皆様に心より感謝申し上げ、発刊のことばといたします。

発刊によせて



石川県知事

馳 浩

石川県農協青壮年部協議会が設立70年の節目を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

貴協議会は、昭和31年の設立以来、県下の各農協青壮年部や女性組織協議会等と連携して、消費者との交流を図る農作業体験や地域リーダー養成研修の実施など、消費者の農業に対する理解の促進や担い手育成活動に取り組んでこられました。改めて皆様のこれまでのご尽力に深く敬意を表します。また、令和6年能登半島地震の発災後には、被災地で支援物資を配布するなどのご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、農業は、私たちの生活に必要な食料を供給するという重要な産業です。一方で、農業者の減少・高齢化や耕作放棄地の増加、気候変動による影響等により本県の農業を取り巻く情勢は大きく変化しており、加えて、能登半島地震や奥能登豪雨により農地等に極めて甚大な被害を受けました。

県では、生産基盤の復旧に加え、被災された事業者の支援に幅広く取り組んでおり、引き続き、ハード・ソフト両面から、一日も早い本格的な復旧と創造的復興の実現に向け、全力を尽くしてまいります。

また、今後の本県農業の方向性を示すため、農業者をはじめ、関係団体や専門家の方などで構成する検討委員会での議論も踏まえ、新たな「いしかわの食と農業・農村ビジョン」を策定中であり、地震・豪雨からの復旧・復興はもとより、多様な農業人材の確保や農業所得の向上などを柱として掲げ、収益力の高い持続可能な農業の実現を目指してまいりたいと思います。

こうした新しいビジョンを着実に実行し、本県農業を発展させていくためには、地域に根差した活動や意欲的なチャレンジ精神により、それぞれの地域で活躍されている皆様のご協力が必要不可欠であり、新しい時代の本県農業を支える牽引役となっていきたいと思っております。

最後に、石川県農協青壮年部協議会の今後益々のご発展と、青年農業者の皆様のたいなるご活躍を心からご祈念申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。

発刊によせて



石川県農業協同組合中央会
代表理事会長

西 川 一 郎

石川県農協青壮年部協議会が設立70年を迎えられましたことに、心よりお祝い申し上げます。

長年にわたり、県下JA青壮年部の皆様が地域農業の振興と次世代を担う活動に尽力され、この節目の年を迎えられましたことに、深く敬意と感謝を表します。

盟友の皆様には、日頃より地域に密着し、食と農の大切さを広める活動や地域を支える実践を積み重ねてこられました。その献身的な努力が石川の農業を支え、地域の活力を生み出す原動力となっています。

平成27年からの10年間を振り返りますと、農業を取り巻く環境は大きく変化しました。農協改革や貿易自由化の拡大、気候変動への対応、デジタル技術の進展など、農業の構造転換が進む一方で、高齢化や担い手の減少といった課題も顕在化しました。

さらに、令和6年1月の能登半島地震、同年9月の豪雨災害と、相次ぐ自然災害が本県を襲い、多くの農地や施設が甚大な被害を受けました。我々、JAグループ石川では「被災地の日も早い復旧・復興」を最優先に掲げ、全県的な支援体制を整備し、被害調査、施設復旧支援、資材供給、ボランティア活動、金融・共済対応など、あらゆる面から農家・組合員の生活と営農の再建に取り組みしました。

また、青壮年部の皆様も現場の先頭に立ち、ボランティアや営農支援等を通じて地域を力強く支えられました。その行動力と連帯の精神は「地域と共に歩むJA運動」の原点であり、本県農業に大きな希望を与えるものです。

この10年間、JAグループ石川は「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を目標に自己改革を進め、営農支援の強化、6次産業化や国消国産の推進、スマート農業の導入など、将来を切り拓く持続可能な農業の実現に向けて取り組んでまいりました。

こうした歩みを支えてきたのは、JA青壮年部の盟友の情熱と行動力です。若い力と柔軟な発想、そして地域を想う心が、新しい時代の本県農業を切り拓く原動力となっています。その姿はJAグループの誇りであり、次代への希望です。

結びにあたり、石川県農協青壮年部協議会の70年にわたる輝かしい歴史に敬意を表し、盟友の皆様のご健勝とご活躍、そして本県農業のさらなる発展を心よりご祈念申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。

発刊によせて



J A石川県女性組織協議会
会 長

廣 澤 貴 子

この度、J A石川県青壮年部協議会が設立70年を迎えられましたことを、心よりお喜び申し上げます。

盟友の皆さま方におかれましては、設立以来、地域農業の理解促進や、農業経営の発展のために強いリーダーシップを発揮され、さまざまな活動に取り組んでこられたことに深く敬意を表します。

次世代を担う子どもたちとの農業体験や食農教育、農業まつりや地域イベント等、元気よく活動されるお姿は、女性部にとっても刺激となり、私たちも頑張ろう！と思わせていただいております。

さて、農業を取り巻く環境は、気候変動や世界情勢の影響を受け、年々厳しさを増しております。特に、令和6年の能登半島地震、奥能登豪雨では、建物の崩壊や道路の寸断、農地、農作物の被害だけにとどまらず、私たちの暮らしそのものに大きな影響を与えました。被災地の復旧・復興に、貴組織のご尽力には頭が下がる思いです。

さらには、近年、農業生産資材の価格の高騰、農業従事者の高齢化や担い手不足、令和の米騒動など、食と農をめぐる数多くの問題が次々と起こっております。

このような時だからこそ、農業、暮らしの再建、食と農を守るために、青壮年部と女性部が手を取り合い、知恵を出しながら協力することで、新たな可能性が広がるものと確信しております。

私たちが地域コミュニティの架け橋となって、子どもから高齢者まで幅広い世代を対象としたイベントなどを行いながら、『協同』の素晴らしさを広め、地域を元気にする活動に、共に取り組んで参りましょう。

最後になりましたが、J A石川県青壮年部協議会のさらなる発展と、皆さま方のご健康とご活躍をご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



第 1 章

この10年のあゆみ

この10年の あゆみ

平成 27 年度（H27.4～H28.3）

安倍政権のもと、「地方創生」が重要政策として推進され、人口減少や地域経済の衰退への対応が本格化しました。農業分野では、農協改革関連法が成立し、J A グループの組織見直しや農業所得の増大が求められる転換期となりました。T P P（環太平洋パートナーシップ協定）の大筋合意が発表され、農産物の国際競争力強化が課題として浮上しました。国内では北陸新幹線が金沢まで延伸し、地方観光の活性化が進みました。

平成 28 年度（H28.4～H29.3）

熊本地震が発生し、多くの農地や畜産施設が被害を受けました。政府は農業の再建支援を急ぎ、被災地の復興と農業基盤の整備に力を注ぎました。T P P 協定の署名が行われ、国内では農業者の不安に対応するための対策が検討されました。為替変動や天候不順による農産物価格の高騰も見られ、消費者と生産者双方に影響を与えました。地方では移住促進や6次産業化の動きが広がりました。

平成 29 年度（H29.4～H30.3）

総選挙で自民党が大勝し、安定した政権運営が続きました。農業分野では「農業競争力強化プログラム」が実施され、企業参入の促進や流通・加工の効率化が進められました。米政策の見直しが進み、平成30年産からの生産数量目標の廃止が決定しました。豪雨や台風による農作物被害が相次ぐ一方、海外輸出は拡大し、日本産農産物のブランド化が進展しました。

平成 30 年度（H30.4～H31.3）

西日本豪雨や北海道胆振東部地震など自然災害が相次ぎ、農地・施設に大きな被害が出ました。政府は災害対応と農業基盤整備の強化を図りました。米の生産調整が廃止され、需要に応じた生産・販売が本格的に始まりました。農業の担い手不足が一層深刻化し、スマート農業や外国人技能実習制度の活用が進められました。世界では米中貿易摩擦が激化し、日本の輸出戦略にも影響が及びました。

令和元年度（H31.4～R2.3）

平成から令和へと元号が改まり、新時代の幕開けとなりました。台風19号などの自然災害が各地を襲い、農業施設や果樹園に甚大な被害が生じました。政府は被災農家への再建支援を拡充し、復旧に向けた動きが加速しました。消費税率が10%に引き上げられ、軽減税率制度が導入されました。農産物輸出は過去最高を更新し、海外市場開拓が一層注目を集めました。

令和4年度（R4.4～R5.3）

ロシアによるウクライナ侵攻を受け、国際的な穀物・肥料価格が高騰しました。日本の農業現場でも燃油や資材価格が上昇し、経営を圧迫しました。政府は「食料安全保障の強化」に向けて国産飼料や肥料の確保を進めました。物価上昇の中で国民生活への影響が広がり、省エネや国産志向が高まりました。

令和2年度（R2.4～R3.3）

新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大し、社会経済活動が大きく制約されました。飲食業や観光業の停滞により、農産物の需要にも深刻な影響が及びました。政府は農業者への緊急支援策を実施し、販路の確保や非対面販売の拡大が進みました。リモートワークや地方移住への関心が高まり、地域農業の新たな可能性が模索されました。

令和5年度（R5.4～R6.3）

コロナ禍からの経済回復が進む一方、円安や物価上昇が続き、生活や農業経営に影響を与えました。政府は食料・農業・農村基本法の改正に向けた議論を進め、持続的な農業の姿を問う1年となりました。外国人労働力の受け入れ拡大やデジタル技術の導入が進み、地域農業の再生が模索されました。

令和3年度（R3.4～R4.3）

コロナ禍の影響が続く中、東京オリンピック・パラリンピックが1年延期を経て開催されました。農業界では人手不足や資材高騰が課題となり、スマート農業技術の導入が加速しました。政府は「みどりの食料システム戦略」を策定し、環境負荷の低い持続可能な農業の実現を目指しました。気候変動対策と農業の両立が大きなテーマとなりました。

令和6年度（R6.4～R7.3）

能登半島地震が発生し、北陸地方を中心に甚大な被害が生じました。農地・施設の復旧支援が急がれ、被災地の農業再建が課題となりました。政府は災害対応と併せて、気候変動への適応策や食料安全保障の強化を進めました。国際的にはエネルギー・資源価格の高止まりが続き、国内農業では省エネ型経営や環境配慮型生産への関心が一層高まりました。



第 2 章

歴代委員長のメッセージ

歴代委員長のメッセージ

(平成27年度～)

過去10年の歴代委員長が、活動期間中に発信していたメッセージやコメントを集めました。これらの言葉は、その時代に抱えていた課題や、委員会として目指していた方向性を示す貴重な記録であり、同時に、私たちの歩みを振り返る上での大切な手がかりとなっています。

※全国の盟友たち（JA全青協ホームページより）

■平成27年度

北 西 幸 治

「つなぐ」



■平成28年度

灰 谷 信 剛

「青壮年部活動を通じて」



■平成29～30年度

孫 崎 浩

平成29年度

「『地域と仲間』絆で結ぶ明日の農業」



平成30年度

「食農教育の大切さ」



■令和元年度～

高 本 祐 輔

令和元年度

「二足の草鞋から、一足へ」



令和2年度

「いつかは専業農家」



令和3年度

「2足から1足へ」



令和4年度

「心機一転」



令和5年度

「あれから20年・・・」



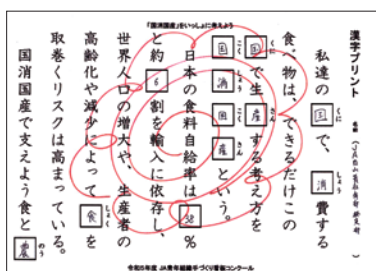
令和5年度

「「あすの担い手」募集中」



令和6年度

「6年生」



令和7年度

「我がJA青年組織は、永久に不滅です。」





第 3 章

J A 青壮年部の活動

J A加賀青壮年部

設立年月日 昭和46年4月

現在盟友数 439名

委員長名 石本 和也

このたび石川県農協青壮年部協議会が設立70年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

J A加賀青壮年部の活動は5月に「親子バケツ稲体験」を開催しています。親子を対象に苗の状態からお米ができるまでの生育過程を観察いただき、お米がどうやって作られるのかを体感していただくことを目的として実施しています。

7月には青壮年部と女性部合同でボウリング大会を開催しました。こちらはチーム戦での開催としており、地域住民の皆様に多く参加いただき、交流の場として好評をいただいております。好成績だった方には加賀市産の新米やJ A加賀6次化商品などをプレゼントしています。

8月には「親子ふれあい体験農業」の定植作業を行っています。未来を担う子どもたちに農業の楽しさや大変さ、素晴らしさを理解していただくために北陸最大級の産地であるブロッコリーの定植から収穫までを体験していただきます。



9月には草取り作業、10月には収穫作業を行います。収穫時にはブロッコリーの選果作業をしているJ A加賀野菜集出荷貯蔵施設で選果の様子や施設の設備を見学いただいたり、採れたての野

菜を使った女性部による昼食会を開催しました。野菜の定植から収穫まで体験できるイベントはとても好評で、毎年多くの皆様に参加いただいております。



11月には恋活パーティーを開催しています。ホテルアローレを会場にランチビュッフェを楽しみながらコミュニケーションゲームを楽しんでいただく出会いの場を提供しました。若手農家への出会いの場提供と青壮年部組織のPRを目的として行っており、いしかわ結婚支援センターとも連携しながら加賀市の発展・地域貢献につながればと思っています。



今後の活動方針は加賀市内外のより多くの皆様に青壮年部としての活動はもちろん、加賀市の農業や活動について知っていただくために「親子ふれあい体験農業」など主要イベントをPRし、食育活動や農業の楽しさ・大変さをより多くの方々に体験していただきたいと考えています。また、食育活動や農業体験を通じて少しでも興味を持ってくれた人に盟友への加入や加賀市への移住提案など加賀市のためにできることを少しでも取り組み、より一層青壮年部としての活動を展開していきたいです。

JA小松市青壮年部

設立年月日 昭和46年4月

現在盟友数 324名

部長名 大音師 豊

JA県青協70年を迎え、これまで県青協の活動と地域農業を支えてこられた諸先輩方に深く敬意を表します。



我々青壮年部は、JAを拠り所として集い、情報交換や相互交流を行うとともに、その活動を通じて農業の振興や、よりよい地域づくりに貢献することを基本方針に掲げており、食農教育や農業理解促進運動を通じ、地域に親しまれる活動を展開してまいりました。

近年は、女性部との合同行事も多く、「食と農と環境を考える講演会」や、市内小学生親子対象「一日緑の学園」での収穫体験や、「おにぎりの日」での新米おにぎり配布など、青女一体となり取組んでおります。



なかでも、令和6年能登半島地震での二次避難者支援では、小松市内の避難者に対し女性部と述べ7回・参加人数述べ112名で炊き出し等を行いました。

また、「JA役職員との意見交換会」は、青壮年部の想いを直接伝えられる貴重な場となっております。

支部活動も、米づくり体験農園では、圃場の提供から始まり、田植え稲刈りと作ることの大変さや、収穫の喜びなど感動を与える活動を展開しております。

その他にも、各支店でのイベントにも参加し、青壮年部活動をPRしています。ところが、コロナ禍ではPRできる機会も減り、支店収穫感謝祭も中止を余儀なくされました。それでも何か少しでもプラスになるよう、当青壮年部は支店にオリジナルTシャツを配布することをJAに提案し、予算化されました。1つの支店から他の支店にも広がり、今ではJA職員と連携した野菜Tシャツ活動となりました。



毎年のように盟友数が下がり続けていましたが、令和7年は3名の増加となりました。新たな盟友の確保が難しい状況ですが、これからも女性部と協力し、国消国産・地産地消のPRを図り、活動をより活発化していきたいと思っています。

J A根上青壮年部

設立年月日 昭和42年5月

現在盟友数 37名

部長名 村井 俊一郎

私たちJ A根上青壮年部は、支部はなく本部のみで活動を行っております。盟友も多くはないものの様々な活動を行っており、近年では、8年前から県青協の取り組みとして始まった「石川県絆再耕プロジェクト」を毎年行っています。耕作放棄地にひまわりの種を播き、育て、種を採取して来年に繋げていくこの活動は、小規模ではあるものの災害やコロナ流行による活動自粛の中でも続けてきました。この活動を色々な人に知ってもらうために部会長が中心となり、ひまわりの咲いている風景をドローンで空撮を行いそれ編集して青壮年部の活動を動画サイトに投稿して宣伝活動を行いました。



また、テレビ番組「J A探訪 地域に笑顔を」でも取り上げて頂き放送されたことで少しずつではあるものの私たちの活動を知ってもらえているのではないかと思います。その他の活動としてはJ A根上への協力活動として、毎年行われる農協祭りでの「焼き鳥の出店」を行っております。現在は、1日のみの開催となっておりますが例年多くの方から好評を頂いております。この活動を通じて近隣住民の方々と交流を深め、青壮年部を知ってもらい盟友数の拡大に繋がるきっかけ



けなるように今後も続けて行きたいと思っています。

現在私たち青壮年部の盟友数は高齢化の影響もあり、年々減少しており大人数での活動が難しくなっております。その為今後の活動方針として女性部と共同で出来る活動を模索しております。現在までに、朝ごはん食べよう運動や保育園での食育活動を女性部と行ってきました。今後はより多くの活動を行えるように話し合いを行いお互いの活動をより活発にしていきたいと思っています。

その他には、視察研修旅行を行い他様々な地域の農業者の方と交流や、直売所などの視察を行い今後の農業活動に活かしていただくことは勿論のこと、盟友同士の交流を深めていき組織の活性化に繋げていきたいと考えております。現在国内では農業や農協の在り方など多くの問題が挙げられております。私たちも例外ではありません。ですが、盟友同士の結束を今後も深めていき、みんなで様々な問題を乗り越えていくことが大切になっていくと考えています。



その為にも地域住民や農業者の方々に必要とされる青壮年部を盟友同士協力し合って盛り上げていきたいと思っています。

J A能美青壮年部

設立年月日 昭和50年5月

現在盟友数 135名

部長名 西田 義規

私たちJ A能美青壮年部は「手取川」を挟んだ能美市と川北町を中心に活動しています。能美市、川北町は手取川扇状地の肥沃な土壌の恵みをうけ、水稻を中心とした農業が活発に営まれている地域です。水稻では「コシヒカリ」や「ゆめみづほ」、「ひやくまん穀」の作付け、水稻の他には特産品として「丸いも」や「いちじく」、「ハトムギ」、「玉ねぎ」が有名です。また、J A能美では特産品を加工した「かきもち」や「丸いもそば」、「ハトムギ茶」の販売にも力を入れています。



J A能美青壮年部は、4つの支部から構成されており、支部ごとにそれぞれ独自の活動を行っています。例えば、地域の保育園児・小学生を対象としたお米やサツマイモなどの体験農園やプランターでの野菜栽培などを行い、次世代を担う子供たちに農業に触れてもらう機会を提供しています。また、一人暮らしの高齢者を対象とした粗大ごみ回収、カーブミラー磨き、道路のゴミ拾いなどの清掃活動を通じた地域貢献活動を行っています。

また、毎年10月に行われる秋の収穫祭では、焼き鳥屋台を出店し、多くの来場者の方々に収穫祭を楽しんでいただいています。他にも、お米の消費拡大を目的としたおにぎりの配布を行う「朝



ご飯を食べよう運動」や視察研修旅行として県外の農業関連施設等を訪問し、農業に関する理解を深めるとともに青壮年部員同士の親睦も深めています。

今後の活動としては、J A能美管内の農業関連施設・優良生産圃場の視察を行い、地域農業への理解を深めるとともに、管内の他地区の農業者との交流を深める機会を用意できたらと考えています。また、能登半島地震に対する復興支援活動を通じた農業者支援を行っていきたいと考えています。



他にも、地元産農産物の消費拡大を目指し、女性部の協力活動を検討しています。育てて収穫して終わり、ではなく調理して食べるところまで体験してもらうことで、「地産地消」・「国消国産」を意識してもらうことが出来るのではと考えています。J A能美の女性部、女性加工部は料理教室や園芸教室、加工品作りなど活発に活動を行っており、お互いに協力し合うことで我々青壮年部活動もより活発で実りあるものにしていけるのではと考えています。

J A白山青壮年部

設立年月日 平成20年4月

現在盟友数 66名

部長名 鶴賀 宗一郎

はじめに、J A石川県青壮年部協議会設立70年を迎え、長きにわたり地域農業と農業者の発展のために尽力されてきた歴代の先輩方、そして今日まで歩みを共にしてきた多くの盟友の皆さまに心より敬意を表します。

私たちJ A白山青壮年部もこの大きな節目とともに迎えられることを大変うれしく思っております。



J A白山青壮年部は、平成19年に旧3 J A（つるぎ郷・蝶屋・手取）が合併した「J A白山」を母体とする青壮年部で、現在は5つの支部があります。支部での活動の歴史は長く、J Aの合併以前より地域に根付いた青壮年部として仲間づくりや地域貢献・食農教育など「食と農の大切さを次代へつなぐ」という思いのもと幅広い活動を行っています。

その代表的な活動が「バケツ稲づくり」です。以前は保育園や幼稚園での農業体験として、近年はコンテスト方式として広く参加者を募り、自分たちで稲を育てる体験を通じて農業への理解・魅力を感じてもらう取り組みとして定着しています。参加者の中には、独自に鳥よけを設置するなど工夫しながら収穫を目指す姿が見られ、稲作の大変

さや喜びを実感していただくきっかけとなっています。



農業まつりや農産物直売所「よらんかいねえ広場」に出店し、地元農産物を活用した加工品の販売などを行い、消費者と直接交流する場を設けてきました。また、特別栽培米「比咩の米」の奉納事業では、盟友が自らお米を担ぎ、自然の恵みと地域への感謝を込め白山奥宮まで登山を行いました。

そのほか、こども園や小学校での野菜栽培体験や県青協事業の「看板コンクール」、「絆再耕プロジェクト」など、食農教育や地域農業の振興に関わる活動も積極的に行ってきました。さらに、ポリシーブックを活用し活動の振り返りと改善を重ねることで、より実りある事業を目指しています。

J A白山青壮年部は、これからも地域農業と暮らしを守り仲間と共に歩み続けます。食と農を未来へつなぐ架け橋として、地域の皆さまとともに次代の農業を育ててまいります。



JA松任青年部

設立年月日 昭和47年3月13日

現在盟友数 197名

委員長名 北村 市大

私たちJA松任青年部は、本部と4支部13地区体制（内1地区は休部中）で活動しています。本部は執行部会と各支部、地区長からなる役員会、そして各支部、地区の専門部長からなる3つの専門部会（企画部、農業理解促進部、地域交流部）で組織されています。



企画部は青年部組織の活性化、盟友獲得・育成の推進及びJAとの協力事業の推進等を行うための企画・研修・説明会等の立案を行っています。農業理解促進部は、田植え作業や収穫作業などの農作業を子供たちが体験できるグリーンセミナーや看板コンテストへの参加を通じて農を広めています。地域交流部は、海岸清掃や地域のお祭りなどのイベントに参加し、他の青年部との交流・意見交換・支援活動の企画・実施を行っています。



私たち青年部は、本年で54年の歳月を数え、また近年、各地区青年部が70年を迎えております。この中で、近年農業を取り巻く情勢が大きく変化しており、とりわけここ数年においては、農家の減少、高齢化、担い手不足、異常気象（温暖化）が問題になっています。また、米価格の高騰による米の消費減退などの問題や、生産資材・燃料の高騰による農業費用の圧迫が、農業経営を妨げているので食糧安全保障政策の確立が急がれています。

私たちを取り巻く社会は、インターネットの普及により情報収集、コミュニケーション、購買行動、働き方など大きな変化をもたらしました。人間関係においては、地理的な制約を超えて、共通の趣味や関心を持つ人との交流が容易になり、新たなコミュニティが出来るようになりました。便利になった反面、地域のつながりが希薄になっていると思います。地域の交流が減少すると、地域の伝統や文化が失われ、災害時には対応力が低下し地域の安全が脅かされます。



このような状況の中、私たち青年部においては盟友数が減少し、それに伴い支部・地区による活動の格差が生じています。このままでは青年部活動を継続するには困難に感じます。SNSなどを活用し、人と人とのつながりを強化、地域と地域のつながりを強化し新しい世代の盟友を獲得することで地域の伝統や文化を守り、改革する必要があります。私たち、松任青年部は地域のリーダー的存在であり若い世代が自主的に入りたいと思ってくれる尊敬される組織にしたいです。

J A金沢中央青壮年部

設立年月日 昭和49年 8月

現在盟友数 108名

部 長 名 河村 洋憲

我々 J A金沢中央青壮年部は昨年度、J A金沢中央合併 50 周年と同時に設立 50 周年を迎えました。活動は時代の流れとともに減少、変化してきましたが現在の取り組みを紹介いたします。



【花いっぱい運動】

金沢市から依頼され昭和 60 年より行っている 40 年の歴史がある活動です。マリーゴールドとサルビアの種を蒔き、ひと月の間水やり等管理を行い芽出しした 2 万株の花苗を金沢市へ引き渡すまでが私たちの責任です。

播種は 6 月初旬に行います。支部女性部や部員家族のお手伝いもいただき小一時間の作業。終始賑やかですが、そんな中でもきれいに芽が出揃うようお願いながら慎重に行われます。

7 月初旬、花苗は市内の小中学校や公民館へ配



布され街並みに花を添えています。

【家族で「大徳金時」芋ほり体験】

女性部との共同企画として行っていた食育活動ですが、女性部が令和 6 年度をもって解散したことを受け令和 7 年度より青壮年部単独の活動となりました。当初は芋ほり体験後にその芋を調理し食するまでの行程でしたが、コロナ禍より収穫し持ち帰ってもらう形に変更しました。参加者の方からは時間が短縮され喜ばれた反面、調理実習の復活を望む声も上がっております。

また、以前は管内の小学校（年 1 校ずつ）にお願いし参加者の募集を行っていたところを、数年前から J A のホームページやInstagram、広報誌にて広く募集する形に変更しました。その甲斐もあり、これまで親子での参加ばかりでしたが、祖父母とお孫さんでの参加が増えより一層活気溢れる活動となっています。



今後の活動としては、今ある活動の継続を柱とし、食育活動などで地域貢献を目指していきたいと考え、各支部では地域のイベント等へ積極的に参加し、農産物の P R や地元の食文化の伝承に少しでも貢献できればと思っています。

また、盟友の減少問題に対しては、視察研修等で現部員との絆強化はもちろんのこと、新たな仲間づくりとしては知恵を出し合い加入促進を行っていきます。

年々農家と田畑が減り続ける中、今後更に青壮年部の存在価値が問われるでしょう。しかし「地域農業を盛り上げより良い地域づくりを目指す団体でありたい」と信念を持ち活動を続けてまいります。

JA金沢市青壮年部

設立年月日 昭和49年4月

現在盟友数 537名

部長名 太平 恵介

私たちJA金沢市青壮年部は、JA石川県青壮年部協議会の指導の下51年を経過した現在、盟友数537名にて、本部および各支部で地域に根ざした活動を行っています。



以前から行っていた活動に加え、新たな活動を試みる支部も増えており、魅力ある活動立案、及び実施に日々邁進しております。昨今の農業情勢は日々めまぐるしいスピードで変化をしており、エネルギーや資材、お米の高騰など様々な問題や課題が出てきていますが、まずは今自分達で出来る事を軸足に据えながら、活動しております。



JA金沢市青壮年部も昨年設立50周年を迎え、その記念事業としての本部活動の1つである、ふれあい農業体験で栽培したコシヒカリを使ってパックご飯を製作しました。完成したパックご飯を歴代の青壮年部部長や現役の盟友全員に贈り、これまでの活動協力に感謝を伝えたほか、被災地への寄付、JA金沢市の秋の一大イベント「金沢農業まつり」で販売し、青壮年部のPRに繋がりました。

今年度もふれあい農業体験として「お米づくり」をテーマに、一般公募10家族を募り、5月から11月にかけて田植え、田んぼの観察、藁を使ったしめ飾り作りと羽釜炊きご飯を食べる、という4回のイベントを企画しました。このお米づくりを通して、農作物を作る大変さや苦労、そして収穫したものをおいしく味わっていただく事の大切さを感じてもらい、より農業に親しんでもらいたいと思っています。



また近年は、ふれあい農業体験の中で、田んぼの土を使って焼き物を製作や、能登半島地震をうけて防災の観点からダンボールを使った簡易トイレの製作といった新たな活動も組み込んでいます。参加される家族だけではなく、参加した盟友にとっても学びとなり楽しめるような、ふれあい農業体験を続けていきたいと思っています。

農業情勢だけでなく、盟友を取り巻く環境も以前とは変わってきています。その中でも盟友同士協力して、変化に対応しつつ今出来る事を実践していき、新しい風を取り入れながら青壮年部活動の活性化を行っていききたいと思います。

JA石川かほく青壮年部 連絡協議会

設立年月日 平成6年6月

現在盟友数 16名

部長名 加藤 篤

この度、石川県農協青壮年部協議会が設立70年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

私たちJA石川かほく青壮年部連絡協議会は、16名の少人数の組織であり、中山間地域で水稻栽培中心の盟友がほとんどであります。協議会活動は年々衰退化しており、県青協の活動を中心に細々と活動しているのが現状です。

盟友の高齢化の中、離農する方も出てきているのが現状で、令和の米騒動言われる現在、生産者手取りは向上し、営農継続意欲に活力をもたらしたのは事実ではありますが、管内水稻農家の4割近くが集落営農組織や法人化が進んでいない小規模な耕作者であります。その大半は後継者も少なく、今までの債務を返済することにより、離農を決意するケースも存在します。先祖の土地を守らなければという時代から、1つの生業として成り立つ時代への転換期として、我々の組織がどう関わっていくかが最大の課題と捉えています。



米の流通環境はかなり変貌を遂げ、特に大規模経営体は自らが収益向上の為、独自の販売ルートを探し利益を拡大するような流れになってきております。これ自体は農家も一経営体としての努力としては大変良いことかと思えます。しかしながら、過度な価格のつり上げは、結果、消費者価格にも反映し、不安定化を生み、更には消費離れに結びつきます。今、米の消費価格が高止まりを見せており、消費動向が注視されておりますが、第一に生産者手取りが再生産価格を下回る事無く、またその中で消費者価格が安定することが重要かと思えます。

諸外国の中には生産者への補助金等により価格抑制している国もありますが、我々は生産現場と消費の立場として、またJAの協力団体として、米消費拡大を基幹として活動を展開し、最終的には価格安定化の一役を担っていければと考えています。また併せて条件不利地で増加している耕作放棄地の活用を、模範となる取り組みの確立を目指しこれからも試行していきたいと考えています。

JAのと青壮年部協議会

設立年月日 平成8年3月

現在盟友数 30名

部長名 古込 久聖

JAのと青壮年部協議会は、地域農業の振興と次世代を担う人づくりを目的に、奥能登2市2町で活動しています。盟友同士が互いに学び合いながら、地域とのつながりを大切に、能登の豊かな自然と食文化を未来へつなぐことを目指しています。これまで、子どもたちに農業の大切さを伝える食農教育活動をはじめ、田植えや稲刈り体験、地元農産物を使った学習会などを行ってきました。また、花いっぱい運動や沿道の清掃活動を通じて、地域の環境美化や住民との交流にも取り組んでいます。さらに、各地の青壮年部との交流会では、他地域の取組を学び、活動の幅を広げてきました。




しかし、令和6年の能登半島地震、そして、能登豪雨の発生により、多くの活動が思うように実施できない状況が続いています。農地や施設の被害、盟友の生活再建など課題は山積していますが、地域の再生に向けて一歩ずつ取り組んでいます。困難な中であっても、盟友同士が支え合い、復旧作業や地域ボランティアに参加することで、地域の絆を再確認する機会ともなりました。

全国の青壮年部から寄せられた義援金や励ましの寄せ書きには、心から感謝申し上げます。温かいご支援が大きな励みとなり、再び地域のために活動する力をいただきました。今後は、能登農業の復旧・再生に向け、地域の実情に寄り添った活動を通じて、地域農業の課題解決に向けた新たな挑戦にも取り組んでいきたいと考えています。



今は被災地域の日も早い復旧・復興が最優先であり、活動は自粛していますが、青壮年部として地域の力になれるよう、JAのとや県青協とも連携しつつ、再来年度の活動再開へ向けて、再び「能登の農業を未来へ、地域とともに」歩みを進めてまいります。JAのと青壮年部協議会は、これからも「能登の農業を未来へ、地域とともに」を合言葉に、仲間と力を合わせ、能登の再生と発展に貢献していきます。





第 4 章

主要活動の記録

石川県農協青壮年部協議会 活動実績発表・青年の主張大会

県内各単組盟友の日頃の活動を通じた優良事例を交換し、今後の活動目標の設定、組織刷新強化に資することを目的として開催している。

〈活動実績発表の部〉 全国大会受賞者（～平成16年度）

平成6年2月13日	J A 松任青年部	西谷雅人「21世紀へのかけ橋」
平成9年2月1日	J A 加賀市青壮年部	中池徹生「我が心の青年部＝青年部四半世紀の軌跡＝」
平成12年2月5日	J A 松任青年部	島崎晃洋「さらば、ヨトウムシー失敗と挑戦」
平成14年2月2日	J A 松任青年部	相古和裕「風・水・土・そして人」
平成16年1月24日	J A 松任青年部	北川 忍「プロジェクトY(やまじま) 地域農業への挑戦者たち」
平成17年1月22日	J A 松任青年部	松中宏充「“2004 御手洗ストーリー” ～CCZメロンに情熱をかたむけた男達～」

〈青年の主張の部〉

昭和55年2月7日	松任市農協青壮年部	相古誠一「何がゆえに毎日を生きるのか」
平成元年12月9日	加賀市農協青壮年部	宮永久志「夢ある農業をめざして」
平成12年2月5日	J A 加賀青壮年部	土山恭弘「『ひまわり迷路』の出口はどこ？」
平成15年1月25日	J A 松任青年部	平田賢一「あなたも、この活動に参加している」

〈活動実績発表の部〉 発表者（平成17年度～）

※ ○は最優秀賞受賞者、◎は全国大会出場者

平成18年1月21日	J A 松任青年部	高森敏史「若き北星の大地で志を一つに 二十一世紀の礎をつくろう」
	J A 松任青年部	◎川本幸進「継続、そしてチャレンジ」
	J A 金沢市青壮年部	南 優「ONLY ONE 『自分だけのリンゴづくり』」
平成19年1月20日	J A 加賀青壮年部	西出一郎「Deep Impact ～農業から夢と感動を～」
	J A 根上青壮年部	橋本幸憲「J A 根上青壮年部活動実績」
	J A 松任青年部	北田勝彦「続・竜宮伝説 ～伝説を創ろうPart II～」
	J A 松任青年部	○西田豊泰「農村文化の継承と創造 ～大松明に思いを込めて～」
	J A 金沢中央青壮年部	小松龍治「農業体験と新米試食会を通じ、 子供たちに理解してもらいたいこと」
	J A 金沢市青壮年部	本野寿一「ふれあい農業体験2006 自分で育てた『完熟トマト』の味は格別！」
平成20年1月19日	J A 松任青年部	○西田明弘「We Wish ～未来への一步～」
	J A 松任青年部	中橋宏一「この地区（まち）に生まれ、 この地区（まち）に生きる」
	J A 金沢市青壮年部	宮崎正利「ふれあい農業体験 in 栗っ子農園」

平成21年 1 月24日	J A 加賀青壮年部	中園公洋「体験から経験へ ～ふれあい体験農業より～」
	J A 白山青壮年部	吉村卓也「林支部 2008」
	J A 松任青年部	◎宮本昌一「赤と黒 古代から未来へ」
	J A 金沢市青壮年部	正野義栄「ふれあい農業体験 2008『リングでGO!』」
平成22年 1 月23日	J A 白山青壮年部	安田利之「一期一会」
	J A 松任青年部	○村本瑞樹「継承 ～僕らの剣崎なんばS t o r y～」
	J A 松任青年部	小柳直史「Priceless ^{フリースレス} ～お金で買えない笑顔がある～」
	J A 金沢市青壮年部	東野 明「私たちは、継続して取り組みます ～ふれあい農業体験 15年の歩み」
平成23年 1 月23日	J A 加賀青壮年部	山川幸一「ふれあい体験農業～農と食～」
	J A 松任青年部	○吉村幸治「『農村・山島』を次代へ」
	J A 金沢中央青壮年部	朝倉 崇「伝えよう 農の心 我が心」
	J A 金沢市青壮年部	東野 明「『ふれあい農業体験 2010』 ～新たなチャレンジ～」
平成24年 1 月21日	J A 白山青壮年部	西田 勉「目指せ!! 地域のサポーター」
	J A 松任青年部	東本 晃「春夏秋冬」
	J A 金沢市青壮年部	○杉澤茂樹「農業は難しい・・・そやけど、楽しく面白い ～ふれあい農業体験を通して～」
平成25年 1 月19日	J A 小松市青壮年部	蕪城 新「平成 24 年度活動実績発表」
	J A 松任青年部	◎吉村幸治「時が変わっても伝えたい」
	J A 金沢市青壮年部	西川克一「やっぱり五郎島金時やね～」
平成26年 1 月18日	J A 小松市青壮年部	中田栄二「平成 25 年度活動実績発表」
	J A 白山青壮年部	山本洋平「ミニトマトのプランター栽培」
	J A 松任青年部	○西川喜朗「心の松明のさらなる継承へ」
	J A 金沢市青壮年部	西川克一「甦れ、耕作放棄地! ～中山間地生産組合と青壮年部との協業～」
平成27年 1 月17日	J A 加賀青壮年部	石本和也「地域に必要とされる組織へ」
	J A 小松市青壮年部	孫崎 浩「地域に根付いた活動で産地 P R 「智・仁・勇～未来の後継者へ～」
	J A 能美青壮年部	披岸智範「我々の活動実績 ～未来への架け橋～」
	J A 松任青年部	倉田久司「輝き」
	J A 金沢市青壮年部	○西川克一「これまでも～これからも『湯涌 絆』」
平成28年 1 月16日	J A 小松市青壮年部	日向孝一「地元から愛される組織へ」
	J A 白山青壮年部	徳野一磨「地産地消の促進について」
	J A 松任青年部	○西田良祐「雨のち晴れ～青年部と成長した一年～」
	J A 金沢市青壮年部	正来康志「産地復活に向けて ホップ、ステップ・・・」
平成29年 1 月21日	J A 加賀青壮年部	前田達信「73 億分の 1 のキセキ ～おむすびと恋はあったかい～」
	J A 白山青壮年部	高本祐輔「こちら石川県白山市 J A 白山青壮年部林支部」
	J A 松任青年部	村田 仁「Anniversary」
	J A 金沢市青壮年部	○正来康志「イチゴ産地復活に向けて ステップ b y ステップ」
平成30年 1 月20日	J A 白山青壮年部	高本祐輔「プロジェクト※～挑戦者たち～ コメに賭けた盟友たち」
	J A 松任青年部	○細川雅人「次の世代に繋がる、しわもち作りと絆」
	J A 金沢市青壮年部	西川克一「おいしくなあれ」

平成31年 1 月19日	J A 松任青年部 J A 金沢市青壮年部	○浅野匡紀「伝統の復活と継承 その先に見えた光」 小林孝志「稲穂で結ぶ 親子の輪」 ～ふれあい 農業体験～
令和 2 年 1 月18日	J A 小松市青壮年部	○阿戸大幸「組織活動改革への挑戦」 ～ one team を目指して～
令和 4 年 1 月15日	J A 松任青年部 J A 根上青壮年部 J A 松任青年部	城田勇生「挑戦と行動」 村井俊一郎「農業との関わり方」 ○田村祐介「コロナ禍で見えてきたもの」
令和 5 年 1 月21日	J A 白山青壮年部 J A 松任青年部 J A 金沢市青壮年部	山本洋平「青壮年部として出来ること」 北 浩司「一致団結 中央支部」 ○吉本真悟「農福連携で花園に元氣と笑顔を！」
令和 6 年 1 月27日	J A 松任青年部 J A 金沢市青壮年部	東 尚平「地域コミュニティ活性化と青年部」 ○太平恵介「お米づくりでつながる輪」 ～つなぎつながら青壮年部へ～
令和 7 年 1 月25日	J A 松任青年部	○中野裕志「古代米の栽培・収穫を通して」

〈青年の主張の部〉 発表者（平成17年度～）

平成18年 1 月21日	J A 加賀青壮年部 J A 富奥青壮年連盟 J A 松任青年部	荒谷良知「梨づくりにかける思い」 福田康浩「未来につながる地産地消」 ○津家田直樹「頂く力、与える力」
平成19年 1 月20日	J A 小松市青壮年部 J A 松任青年部 J A 松任青年部	宮越正広「J A 青壮年部の活動に対する提言」 横山秀治「未来へつなぐ農業・人と自然の調和へ」 森 義浩「愛しきもの」
平成20年 1 月19日	J A 石川かほく青壮年部連絡協議会 J A 加賀青壮年部 J A 松任青年部 J A 松任青年部	○加藤 篤「蕎麦の種って三角なんやねー」 ○川江嘉康「職業は・・・農業！」 大森信広「J A 青年部にはばたく希望の翼」 森 俊幸「農家としての アイデンティティ（本質・独自性）」
平成21年 1 月24日	J A 小松市青壮年部 J A 白山青壮年部 J A 松任青年部	小松龍治「2008 年 今だから考えよう、 話し合ひましょう。」 北野直成「自分なりのこれらかの農業」 竹田隆明「絆」
平成22年 1 月23日	J A 加賀青壮年部 J A 小松市青壮年部 J A 松任青年部 J A 石川かほく青壮年部連絡協議会	○埴岡正稔「あの日、あの時、あの場所で・・・」 ○前田誠治「信頼 ^{そし} ておいしいって言われたい」 城下弥一郎「青壮年部の活動に対する提言」 中垣 聡「地域と農業 ー今ここにある繋がりのー」 加藤 篤「我が家の天然妻」
平成23年 1 月23日	J A 白山青壮年部 J A 松任青年部	林 高弘「どうする青壮年部？どうなる日本農業？」 ○北野佳孝「二枚の写真～過去から未来へ～」
平成24年 1 月21日	J A 加賀青壮年部 J A 松任青年部	川口祐太郎「農業が近くなった」 ○喜田陽一「青壮年部活動を通じて、 農業・地域を考える」
平成25年 1 月19日	J A 金沢中央青壮年部 J A おおぞら青壮年部協議会 J A 加賀青壮年部	水戸勇佑「日本の『農』と『食』へのソボクな疑問」 谷内正和「奥能登農業の未来を思う」 辻 寿彦「J A 加賀青年部が解散して1 年、 今思うこと」
	J A 白山青壮年部 J A 金沢中央青壮年部 J A おおぞら青壮年部協議会	久田智彦「未来へ」 ○水戸勇佑「次世代に残したい農地、都市化との調和」 飯田雅裕「先ず隗より始めよ」

平成26年 1 月18日	J A 加賀青壮年部	坂口明義「私たちにしかできないこと」
	J A 松任青年部	○吉田健一「農業と日本酒と私」
平成27年 1 月17日	J A 松任青年部	○山西正晃「酒米 J A P A N ～酒米と楽しい農業」
平成28年 1 月16日	J A 加賀青壮年部	河田克明「黄金色の景色」
	J A 松任青年部	○吉本俊和「林中 W A Y」
	J A 金沢中央青壮年部	山崎達郎「農業再生へ」
	J A 石川かほく青壮年部連絡協議会	加藤 篤「進化」
平成29年 1 月21日	J A 小松市青壮年部	木内達也「外から聞く言葉、内（親父）から聞く言葉」
	J A 松任青年部	○村田和昭「就農への一步」
平成30年 1 月20日	J A 加賀青壮年部	上口 毅「意思を繋げる農業」
	J A 小松市青壮年部	大音師豊「石川県の宝「ルビーロマン」」
	J A 松任青年部	○小山浩之「Priceless 林中青年部」
平成31年 1 月19日	J A 加賀青壮年部	南出俊介「継（ケイ）活」
	J A 小松市青壮年部	太谷健悟「必要な生産組合」
	J A 白山青壮年部	○寺口直宏「館畑ヒマワリプロジェクト」
	J A 松任青年部	小山勇治「サラリーマン盟友の私にできること」
令和 2 年 1 月18日	J A 加賀青壮年部	田中秀典「農業を伝える」
	J A 白山青壮年部	寺口直宏「J A 白山青壮年部 菌床しいたけプロジェクト」
	J A 松任青年部	倉田 裕「たいせつにしたいもの」
	J A 金沢市青壮年部	○山下冷治「絆 ～ONE HEART～」
令和 4 年 1 月15日	J A 加賀青壮年部	向出幸由「兼業稲作農家の私が思う、 これからの山間地域の農業について」
	J A 白山青壮年部	早崎真由「私たちの青壮年部活動」
	J A 松任青年部	○池下孝生「おっちゃんと地域の未来と青年組織」
令和 5 年 1 月21日	J A 小松市青壮年部	○中谷紘志「将来にわたって持続可能な 農業経営に向けて」
	J A 松任青年部	梅田喜晴「コロナと青年部」
令和 6 年 1 月27日	J A 白山青壮年部	徳野一磨「奉納登山を経験して」
	J A 松任青年部	○村西 大「J A 青年部との出会い」
令和 7 年 1 月25日	J A 加賀青壮年部	○東出紘嗣「農家に生まれて」

〈『君と』コンクール〉 発表者（平成20年度～22年度）

平成21年 1 月19日	J A 小松市青壮年部	表 直輝
	J A 能美青壮年部	佐々木剛
	J A 松任青年部	○川崎裕史
	J A 金沢中央青壮年部	荒木健一、寺田昌司、釜谷 順、小松龍治、荒木隆宏
	J A 石川かほく青壮年部連絡協議会	渡辺保之
平成22年 1 月23日	J A 松任青年部	川崎裕史、東 陽一
	J A 金沢中央青壮年部	本倉賢一、山根翔平、寺田昌司、土田正人、中川貴裕
		橋本和也
	J A 金沢市青壮年部	西川克一
	J A すずし青壮年部	○金田清作
平成23年 1 月23日	J A 加賀青壮年部	○東野真樹
	J A 小松市青壮年部	西出忠夫
	J A 金沢市青壮年部	西川克一
	J A おおぞら青壮年部協議会	高尾智之

スポーツ交流会の開催 (平成27年度～令和6年度)

スポーツを通じて盟友の交流を深め、盟友意識の高揚をはかることにより、組織活動の発展を期すことを目的として、昭和48年、49年にボウリング大会、昭和50年より郡市対抗ソフトボール大会、令和元年にはグラウンドゴルフ大会を開催した。令和2年から4年は、コロナ禍により中断したが、令和5年からは、ボウリング大会を開催し、県内盟友間の交流を図っている。

年 度	年 月 日	内 容	場 所	参加チーム数 人 数
平成 27年	平成27年7月19日	ソフトボール	県営湊ソフトボール グラウンド	12チーム 約200名
28年	平成28年7月16日	〃	〃	11チーム 約200名
29年	平成29年7月15日	〃	〃	11チーム 約160名
30年	平成30年7月14日	〃	〃	11チーム 約170名
令和 元年	令和元年7月13日	グラウンドゴルフ	県営湊グラウンド	10チーム 約40名
5 年	令和5年12月16日	ボウリング	金沢市 コロナキャットボウル	約20名
6 年	令和7年2月22日	〃	〃	約30名

石川の農林漁業まつりへの参画

農林漁業の役割とその振興の必要性について広く県民各層の理解と協力を得るとともに、農林漁業者の強い結束を図るため、「石川の農林漁業まつり」が昭和53年より石川県・JA石川県中央会等の主催で石川県産業展示館において開催している。

県青協では、米消費拡大運動の一環として、第3回の昭和55年より参画し、毎年入場者が10～12万人を数える「まつり」を盛り上げてきた。

回数	年 月 日		モチつき	ポン菓子	太 鼓
第1回	昭和53年10月21日～22日		不 明	不 明	——
第2回	昭和54年10月6日～7日		不 明	不 明	——
第3回	昭和55年10月18日～19日		川 北 町 押 水 町	松 任 市	——
第4回	昭和56年10月17日～18日		押 水 町 金 沢 市	松 任 市 金 沢 市	——
第5回	昭和57年10月23日～24日		内 浦 町 字ノ気 町	松 任 市 門 前 町	内 浦 町 金 沢 市
第6回	昭和58年10月22日～23日		内 浦 町 加 賀 市	能 美 郡 松 任 市	内 浦 町 金 沢 市
第7回	昭和59年 10月27日～28日	産 業 展 示 館	中 島 町 羽 咋 市	能美・小松 松 任 市	富 来 町 金 沢 市
		経 済 連 精米工場	珠 洲 市 金 沢 中 央	加 賀 市 津 幡 市	内 浦 町 金 沢 市
第8回	昭和60年10月19日～20日		県 青 協	加 賀 市 松 任 市	金 沢 市
第9回	昭和61年10月18日～19日		県 青 協	加 賀 市 松 任 市	金 沢 市
第10回	昭和62年10月24日～25日		県 青 協	加 賀 市 門 前 町	内 浦 町
第11回	平成元年11月11日～12日		石川・松任 中 島 町	加 賀 市 津 幡 市	金 沢 市 内 浦 町
第12回	平成2年10月20年～21日		能美・小松 津 幡 市	加 賀 市 松 任 市	松任美田女 金 沢 市
第13回	平成3年11月9日～10日		能美・小松 珠 洲 市	加 賀 市 金 沢 中 央	松任美田女 金 沢 市
第14回	平成4年11月22日～23日		羽 咋 市 門 前 町	津 幡 町 能美・小松	第14回以降 太鼓未実施

回数	年 月 日	モチつき	ポン菓子
第15回	平成 5 年10月23日～24日	能美・小松 金 沢 市	松 任 市 加 賀 市
第16回	平成 6 年10月29日～30日	羽 昨 市 能登協議会	能美・小松 石川かほく
第17回	平成 7 年10月21日～22日	鶴 来 郷 金 沢 中 央	石川かほく 金 沢 市
第18回	平成 8 年10月19日～20日	お お ぞ ら 珠 洲 市	松 任 市 寺 井 町
第19回	平成 9 年10月18日～19日	根 上 羽 昨 市	金 沢 中 央 金 沢 市
第20回	平成10年10月24日～25日	小 松 市 加 賀	松 任 市 加 賀
第21回	平成11年10月16日～17日	小 松 市 松 任 市	小 松 市 松 任 市
第22回	平成12年10月21日～22日	松 任 市 お お ぞ ら	松 任 市 お お ぞ ら
第23回	平成13年10月20日～21日	松 任 市 お お ぞ ら	松 任 市
第24回	平成14年10月19日～20日	金 沢 市 お お ぞ ら	金 沢 中 央 松 任 市
第25回	平成15年10月18日～19日	松 任 市 お お ぞ ら	金 沢 中 央 金 沢 市
第26回	平成16年10月16日～17日	松 任 市	石川かほく 金 沢 中 央
第27回	平成17年10月15日～16日	松 任 市	金 沢 中 央 石川かほく
第28回	平成18年10月14日～15日	金 沢 市 松 任	金 沢 中 央 石川かほく
第29回	平成19年10月13日～14日	松 任 金 沢 中 央	金 沢 市 石川かほく
第30回	平成20年10月18日～19日	お お ぞ ら 松 任	金 沢 中 央 石川かほく
第31回	平成21年10月17日～18日	お お ぞ ら 金 沢 中 央	金 沢 市 松 任
第32回	平成22年10月16日～17日	お お ぞ ら 松 任	石川かほく 金 沢 中 央
第33回	平成23年10月15日～16日	お お ぞ ら 松 任	金 沢 中 央 石川かほく
第34回	平成24年10月20日～21日	お お ぞ ら 松 任	石川かほく 金 沢 中 央

回数	年 月 日	モチつき	ポン菓子
第35回	平成25年10月5日～6日	お お ぞ ら 松 任	石川かほく 金 沢 中 央
第36回	平成26年10月4日～5日	お お ぞ ら 松 任	根 上 石川かほく
第37回	平成27年10月3日～4日	お お ぞ ら 松 任	根 上 石川かほく
第38回	平成28年10月15日～16日	お お ぞ ら 松 任	根 上 石川かほく
第39回	平成29年10月14日～15日	お お ぞ ら 松 任	根 上 石川かほく
第40回	平成30年10月20日～21日	お お ぞ ら 松 任	根 上 石川かほく
第41回	令和元年10月5日～6日	お お ぞ ら 松 任	根 上 石川かほく
第42回	感染症拡大により中止	第42回以降、モチつき・ポン菓子未実施	
第43回	令和4年10月15日～16日	看板コンクール P R 動画の放映	
第44回	令和5年10月21日～22日	看板コンクール 県青協マルシェ ジャンボカボチャ展示	
第45回	令和6年10月19日～20日	看板コンクール 福引 ジャンボカボチャ展示	

営農視察研修会の開催 (平成27年度～令和6年度)

広く農業問題に係る盟友各位の知識、技術の習得と認識の統一を図り、今後の組織活動の強化を目的に開催している。盟友圃場の視察やJ A農業施設見学などに加え、課題共有や先進的な営農事例の紹介、意見交換会を通じて、より実践的で持続可能な農業の実現に向けた学びの場となっている。

年度	年 月 日	場 所	研修内容・講師
平成27年	平成28年3月5日	J A石川教育センター（金沢市）	・農業関係予算・税制／T P P等の情勢についての研修会 講師：J A全中農政部農政課 鬼丸 秀郷 氏
28年	平成28年11月5日～6日	・愛知県一宮市内圃場 ・J Aアグリタウン・元気の郷（愛知県大府市） ・サグワットファーマーズ（愛知県大府市）	・盟友圃場等の現地視察 講師：愛知県農協青年組織協議会 加藤 秀明 氏 ・直売所の見学 ・体験農園等の実践状況説明 講師：農業生産法人 サグワットファーマーズ 株式会社 鈴木 史延 氏
29年	平成30年2月17日	J A石川教育センター（金沢市）	・G A P／事業承継についての研修会 講師：J A石川県中央会 山本 啓暉 氏 J A全農本所 営農総合対策部 T A C推進課 伊藤 悠太郎 氏 J A石川県中央会 柴田 朋憲 氏
30年	平成30年12月1日	・サンファーム法養寺（滋賀県東近江市） ・きてかーな（滋賀県近江八幡市）	・米の集落営農組織との意見交換 講師：農事組合法人サンファーム法養寺 松原 常夫 氏 ・直売所の見学
令和元年	令和元年12月14日	・ジビエ・アトリエ加賀の國（小松市） ・吉田農産（加賀市） ・丸山ぶどう園（加賀市）	・農業施設の見学／活動紹介 ・農業施設の見学／活動紹介／意見交換 講師：有限会社 吉田農産 吉田 義弘 氏 講師：有限会社 丸山ぶどう園 丸山 充雄 氏

年 度	年 月 日	場 所	研修内容・講師
3 年	令和 3 年12月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・ J A加賀 野菜集出荷貯蔵施設 (加賀市) ・ J A小松市 野菜総合集出荷場 (小松市) ・ 大音師ぶどう園 圃場 (小松市) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ J A施設の見学／施設概要紹介 ・ 盟友圃場等の現地視察 講師：大音師ぶどう園 大音師 豊 氏
4 年	令和 4 年12月10日 ～11日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 柿畠農園 (長野県上田市) ・ 杉山農園 (長野県上田市) ・ J A信州うえだ農産物流通センター (長野県上田市) ・ みどりの大地 (長野県上田市) ・ マルシェ国分 (長野県上田市) ・ 岡崎酒造 (長野県上田市) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 盟友圃場等の現地視察 講師：柿畠農園 柿畠 洋一 氏 講師：杉山農園 杉山 明 氏 ・ J A施設の見学／施設概要紹介 ・ 直売所の見学 講師：みどりの大地 大久保 秀則 氏 ・ 直売所の見学
5 年	令和 5 年10月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・ J A石川かほく ほかの里ライスセンター (津幡町) ・ 倶利伽羅不動寺 (津幡町) ・ J Aとなみ野農業機械センター (富山県砺波市) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ J A施設の見学／施設概要紹介 ・ 基調講演「農政の動向と北陸地方の農業の展望について」 講師：参議院議員 藤木 眞也 氏

手づくり看板コンクールの実施 (平成27年度～令和6年度)

農業、J A、J A 青年組織活動に関して、農業関係者、地域住民（消費者を含む）が共感できる手づくりの看板を通じ、農業のある地域づくりの大切さを地域住民に対してアピールするとともに、青年組織盟友が協力して作成することで、組織活動の活性化を図るため、平成2年度より手づくり看板コンクールを実施している。

◎は全国最優秀作品、○は全国応募作品

年 度	応募単組・支部（看板部門）	応募単組・支部（アート部門）
平成 27年	J A 加賀青壮年部 橋立支部、 柴山支部 J A 能美青壮年部 中央支部、 山上第一支部 J A 白山青壮年部 館畑支部、 大神支部 蝶屋支部、 蔵山支部 J A 松 任 青 年 部 中央支部、 北星支部 西南支部、 ○松南支部 J A 金沢中央青壮年部 二塚支部 J A 金沢市青壮年部 ○本 部	J A 白山青壮年部 ○林 支 部
28年	J A 加賀青壮年部 ○橋立支部、 ○柴山支部 J A 能美青壮年部 山上支部、 山上第一支部 J A 白山青壮年部 館畑支部、 大神支部 蝶屋支部、 蔵山支部 J A 松 任 青 年 部 中央支部、 北星支部 西南支部、 松南支部 J A 金沢中央青壮年部 米丸支部	J A 白山青壮年部 ○林 支 部 J A 金沢中央青壮年部 米丸支部
29年	J A 加賀青壮年部 加茂支部、 柴山支部 J A 能美青壮年部 川北支部、 山上第一支部 J A 白山青壮年部 ○館畑支部、 大神支部 蔵山支部 J A 松 任 青 年 部 中央支部、 北星支部 西南支部、 松南支部 J A 金沢市青壮年部 ○本 部（2 作品）	J A 白山青壮年部 林 支 部、 ◎蝶屋支部
30年	J A 加賀青壮年部 三木支部、 ○橋立支部 J A 能美青壮年部 中央支部、 山上第一支部 J A 白山青壮年部 館畑支部、 ○大神支部 蝶屋支部、 蔵山支部 J A 松 任 青 年 部 中央支部、 北星支部 西南支部、 松南支部 J A 金沢中央青壮年部 三馬支部 J A 金沢市青壮年部 本 部（2 作品）	J A 根上青壮年部 ○本 部

年 度	応募単組・支部（看板部門）	応募単組・支部（アート部門）
令和 元年	J A 加賀青壮年部 作見支部、○野田支部 J A 能美青壮年部 山上第一支部 J A 白山青壮年部 大神支部 J A 松 任 青 年 部 中央支部、 北星支部 ○西南支部、 松南支部 J A 金沢市青壮年部 本 部（2 作品）	J A 白山青壮年部 館畑支部、○蝶屋支部 J A 金沢中央青壮年部 鞍月支部
2 年	J A 白山青壮年部 館畑支部、○大神支部 蔵山支部 J A 松 任 青 年 部 松南支部 J A 金沢中央青壮年部 二塚支部 J A 金沢市青壮年部 本 部（2 作品）、 ○浅川支部	J A 根上青壮年部 本 部 J A 白山青壮年部 ◎林 支 部、 蝶屋支部
3 年	J A 能美青壮年部 山上第一支部 J A 白山青壮年部 館畑支部、 大神支部 蔵山支部 J A 松 任 青 年 部 中央支部、 北星支部 ○西南支部、 松南支部 J A 金沢中央青壮年部 米丸支部 J A 金沢市青壮年部 ○本 部	J A 根上青壮年部 本 部 J A 白山青壮年部 林 支 部、○蝶屋支部
4 年	J A 白山青壮年部 大神支部、 蔵山支部 J A 松 任 青 年 部 中央支部、○北星支部 西南支部、 松南支部 J A 金沢中央青壮年部 ○三馬支部 J A 金沢市青壮年部 本 部、 八田支部	J A 白山青壮年部 ○林 支 部、 蝶屋支部
5 年	J A 白山青壮年部 大神支部 J A 松 任 青 年 部 ○中央支部、 北星支部 西南支部、 松南支部 J A 金沢中央青壮年部 戸板支部 J A 金沢市青壮年部 本 部、○浅川支部	J A 白山青壮年部 館畑支部、◎林 支 部 蝶屋支部 J A 金沢市青壮年部 本 部
6 年	J A 加賀青壮年部 加茂支部、 山代支部 J A 白山青壮年部 大神支部 J A 松 任 青 年 部 ○北星支部、 西南支部 ○松南支部 J A 金沢中央青壮年部 大徳支部 J A 金沢市青壮年部 金浦支部	J A 白山青壮年部 蝶屋支部 J A 松 任 青 年 部 ◎中央支部 J A 金沢市青壮年部 本 部

全国最優秀賞受賞作品

平成 29 年度

アート部門賞

● J A 白山青壮年部蝶屋支部



令和 2 年度

アート部門賞

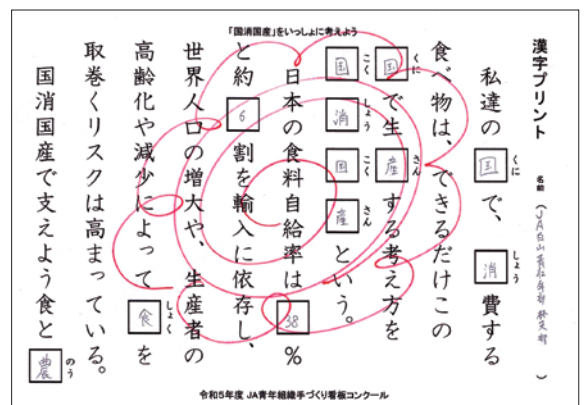
● J A 白山青壮年部林支部



令和 5 年度

アート部門賞

● J A 白山青壮年部林支部



令和 6 年度

アート部門賞

● J A 松任青年部中央支部



石川県農協青壮年部協議会 設立65周年記念事業について

令和2年度は、県青協設立65周年という大きな節目の年であった。本来であれば、事業計画に基づき記念事業を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、各種イベント等の開催が困難な状況となった。このような情勢を踏まえ、県青協委員会において協議を重ねた結果、周年事業の象徴として「65周年記念Tシャツ」を作成することとなった。

本記念Tシャツは、これまでの県青協の歩みと、今後も地域に根差した青年活動を継続していく決意を込めたものであり、関係各位の協力のもと完成した。

さらに、JAグループ石川「担い手応援フェア」2020～農業新時代、未来を切り拓く石川の農業～にて、県青協ブースを出展し、65年の活動記録写真およびTシャツの展示を行った。



県委員が作成したTシャツデザイン

JA青年部シンボルマークを活用し、バックには石川県が描かれている。



「担い手応援フェア」での展示の様子



Tシャツを着用しイベントに参加する盟友たち

能登半島地震に対する県青協の動き

全国からの寄せ書き

「第70回 J A全国青年大会」(令和6年2月28日(水)、29日(木)・東京都内開催)において、全国の盟友から被災地への寄せ書きが集まった。寄せ書きは、令和6年度の県青協通常総会にて、J Aのと青壮年部協議会へ贈呈し、現在もJ Aのと本店に掲示されている。



全国からの義援金を活用した支援活動

(1) 被災地での物資配布

令和6年6月28日(金)、29日(土)に能登北部J A農機センターにて実施された【能登半島地震復興応援フェア】自動車・農機展示会において、支援物資の配布を行い、両日合わせて、約250名の来場者に物資をお渡しした。



(2) 県農林漁業まつりでのイベント実施

令和6年10月19日(土)、20日(日)に県産業展示館で開催された「石川の農林漁業まつり」では、能登復興支援イベントとして、「J A石川県青協 能登復興支援 絆プロジェクト のとをさがせ!」と題した福引チャレンジを実施し、県の委員が作成した石川県市町の形をしたピースで福引を行った。



資料編

石川県農協青壮年部協議会の推移

年 度	S 31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
J A 数	264	260	259	258	254	253	251	245	234	194
組 織 数	48	80	120	155	155	163	158	155	153	136
組織化率	18.2	30.8	46.3	60.1	61.0	64.4	62.9	63.3	65.4	70.1
盟 友 数	4,520	8,151	11,100	11,744	11,716	11,320	10,911	10,371	9,855	6,718

年 度	S 41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
J A 数	194	192	192	191	191	175	136	129	93	79
組 織 数	116	113	111	114	115	101	63	61	41	34
組織化率	59.8	58.9	57.8	59.7	60.2	57.7	46.3	47.3	44.1	43.0
盟 友 数	6,450	5,500	5,543	5,365	5,026	5,803	4,722	4,559	4,736	4,742

年 度	S 51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
J A 数	79	69	65	65	65	65	63	63	57	57
組 織 数	34	38	35	35	37	38	37	38	38	39
組織化率	43.0	55.1	53.8	53.8	56.9	58.5	58.7	60.3	66.7	68.4
盟 友 数	5,259	5,743	5,772	6,162	6,289	6,485	6,559	6,772	6,877	6,994

年 度	S 61	62	63	H元	2	3	4	5	6	7
J A 数	56	56	53	52	52	52	52	52	40	36
組 織 数	38	38	38	34	35	33	33	31	28	21
組織化率	67.9	67.9	71.7	65.4	67.3	63.5	63.5	59.6	70.0	58.3
盟 友 数	6,898	6,845	6,457	6,123	6,028	5,789	5,688	5,337	5,015	4,693

年 度	H 8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
J A 数	35	33	29	24	24	22	22	22	22	22
組 織 数	22	21	19	13	12	12	13	13	13	13
組織化率	62.9	63.6	65.5	54.2	50.0	54.5	59.1	59.1	59.1	59.1
盟 友 数	4,749	4,681	4,454	4,471	4,191	4,080	3,895	3,685	3,510	3,455

年 度	H 18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
J A 数	22	17	17	17	17	17	17	17	17	17
組 織 数	13	12	11	11	11	11	11	11	10	10
組織化率	59.1	70.6	64.7	64.7	64.7	64.7	64.7	64.7	58.8	58.8
盟 友 数	3,159	2,964	2,880	2,754	2,654	2,611	2,526	2,390	2,266	2,251

年 度	H 28	29	30	R元	2	3	4	5	6	7
J A 数	17	17	17	16	16	16	16	16	15	15
組 織 数	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
組織化率	58.8	58.8	58.8	62.5	62.5	62.5	62.5	62.5	66.7	66.7
盟 友 数	2,184	2,051	2,053	1,999	1,965	1,896	1,799	1,774	1,923	1,889

県下J A青壮年部盟友数の推移

※平成27年度以降

組 織 名	平 成 27年度	平 成 28年度	平 成 29年度	平 成 30年度	令 和 元年度	令 和 2 年度	令 和 3 年度	令 和 4 年度	令 和 5 年度	令 和 6 年度	令 和 7 年度
J A加賀青壮年部	332	326	311	320	318	303	302	256	254	434	439
J A小松市 青壮年部	429	405	385	382	368	362	354	353	339	321	324
J A根上青壮年部	22	22	20	20	20	20	19	16	19	19	37
J A能美青壮年部	194	190	190	183	183	182	158	158	158	158	135
J A白山青壮年部	87	80	78	78	86	84	72	69	70	64	66
J A松任青年部	340	311	302	299	280	277	247	238	225	225	197
J A金沢中央 青壮年部	108	106	103	102	107	107	112	110	112	107	108
J A金沢市 青壮年部	679	679	596	605	577	570	572	544	546	544	537
J A石川かほく 青壮年部	19	21	21	21	21	21	21	16	16	16	16
J Aのと青壮年部	41	44	45	43	39	39	39	39	35	35	30
合 計	2,251	2,184	2,051	2,053	1,999	1,965	1,896	1,799	1,774	1,923	1,889

石川県農協青壮年部協議会歴代委員名簿

年度	委員長	副委員長	委員・監査委員	事務局
昭和31年	上野 由雄 (富 奥)	岡崎 春雄 (豊 川)	〈委員〉 川西 正治(動 橋) 小中 重夫(南 郷) 紺矢 英朗(山 上) 中島 幸一(川北西) 高本 摯(一 木) 吉本 藤作(額) 松井 与男(宇ノ気) 橋本 堅治(英 田) 浅井 一男(加 茂) 宮下 幸男(柏 崎) 川上 栄幸(南大谷) 出村 省三(大 屋) 片岡 清作(穴 水) 貞弘 彦栄(若 山) 菊田 茂(松 波) 〈監査委員〉 土田 一(分 校) 勝田 量基(河原田第一)	(組織課) 事務局長 別川悠紀夫 31年12月退任 前坂 武義 31年12月就任 事務局 北村 泰一 居村 孝洋
32年	安実 吉門 (山 島)	岡崎 春雄 (豊 川) 松井 与男 (宇ノ気)	〈委員〉 小中 重夫(南 郷) 川西 正治(動 橋) 紺矢 英朗(山 上) 中島 幸一(川北西) 平野 正(富 奥) 吉本 藤作(額) 北 義正(金 浦) 岡島喜久雄(八 田) 浅井 一男(加 茂) 南 平次(柏 崎) 森口 菊松(御 祖) 出村 省三(大 屋) 片岡 清作(穴 水) 貞弘 彦栄(若 山) 皆口 竜蔵(三和飯塚) 〈監査委員〉 北 久二(栗 津) 菊田 茂(松 波)	(組織課) 事務局長 前坂 武義
33年	安実 吉門 (山 島)	松井 与男 (宇ノ気) 寺山 章 (医王山)	〈委員〉 小中 重夫(南 郷) 作美 隆(作 見) 中島 幸一(川北西) 紺矢 英朗(山 上) 山岸 忠三(石 川) 森 政吉(戸 板) 岡島喜久雄(八 田) 南 平次(柏 崎) 竹谷 丈吉(熊 野) 滝中 清一(田鶴浜) 森口 菊松(御 祖) 出村 省三(大 屋) 山崎 正雄(穴 水) 皆口 竜蔵(三和飯塚) 森井 星次(若山町) 〈監査委員〉 宮腰 宝一(松 波) 高崎 宗七(栗 津)	(組織課) 事務局長 前坂 武義 事務局 西尾外代志
34年	安実 吉門 (山 島)	岡島喜久男 (八 田) 滝中 清一 (田鶴浜)	〈委員〉 小中 重夫(南 郷) 鹿野 尚道(動 橋) 進藤 敬(川北西) 西野 所三(牧) 河村好一郎(富 奥) 森 政吉(戸 板) 中島 佐市(米 丸) 加藤 外次(中 条) 真田 正則(栗ノ保) 勝布 広吉(富来川) 小酒源太郎(滝 尾) 山崎 正雄(穴 水) 田端 幸蔵(河原田) 宮腰 宝一(松 波) 門寺 弘(大 谷) 〈監査委員〉 高崎 宗七(栗 津) 大西 芳雄(辰 巳)	(組織課34年10月まで 営農教育課34年10月より) 事務局長 前坂 武義 34年10月退任 奥野忠次郎 34年10月就任
35年	安実 吉門 (山 島)	進藤 敬 (川北西) 加藤 外次 (中 条)	〈委員〉 鹿野 尚道(動 橋) 川上 一郎(熊 坂) 高崎 宗七(栗 津) 河村好一郎(富 奥) 田中 正二(額) 作本 孫一(犀 川) 高崎 喜作(宇ノ気町) 真田 正則(栗ノ保) 川口 正雄(余 喜) 鈴森 一男(滝 尾) 谷口 哲夫(笠師保) 角間 昭三(穴水町) 田端 幸蔵(河原田) 皆口 竜蔵(三和飯塚) 仮谷 政栄(上 戸) 〈監査委員〉 桂田 亮栄(庄) 森口 菊松(御 祖)	(営農教育課) 事務局長 奥野忠次郎 事務局 喜多 通夫
36年	河村好一郎 (富 奥)	田中 正二 (額) 角間 昭三 (穴水町)	〈委員〉 桂田 亮栄(庄) 上口 善一(南 郷) 榎田 金明(牧) 本田 久夫(川北西) 松田 栄一(御手洗) 作本 孫一(犀 川) 東 直吉(森 本) 西尾 実(中 条) 杉浦 外夫(中邑知) 小酒 秀明(北大海) 森口 菊松(御 祖) 垣浦 正二(笠 師) 北山 亮平(劔 地) 仮谷 政栄(上 戸) 坂本 正就(若山町) 〈監査委員〉 坂本 正男(動 橋) 干場 仁平(松 波)	(営農教育課36年9月まで 農政課36年9月より) 事務局長 奥野忠次郎 36年9月退任 北村 泰一 36年9月就任 事務局 喜多 通夫

年度	委員長	副委員長	委員・監査委員	事務局
37年	角間 昭三 (穴水町)	本田 久夫 (川北西) 作本 孫一 (犀 川)	〈委員〉 上口 善一(南 郷) 高村 耕作(橋 立) 榊田 金明(牧 野) 丹羽 誠喜(石 川) 西田 一清(山 島) 前田外喜雄(押 野) 西山 憲治(宇ノ気町) 中島 弘二(俱利伽羅) 杉浦 外夫(中邑知) 松田 喜好(末 森) 垣浦 正二(笠 師) 井上 正一(金 丸) 泉 雄吉(町野町) 坂本 正就(若山町) 〈監査委員〉 中野 久男(富 奥) 中谷 昭栄(熊 野)	(農政課) 事務局長 北村 泰一 事務局 喜多 通夫
38年	角間 昭三 (穴水町)	作本 孫一 (犀 川) 上口 善一 (南 郷)	〈委員〉 高村 耕作(橋 立) 新谷 一朗(国 府) 西井 秀隆(寺井町) 中野 久男(富 奥) 吉本 俊夫(林 中) 金原 博(大 徳) 西山 憲治(宇ノ気町) 久保 秀作(大 海) 杉浦 外夫(中邑知) 松田 喜好(末 森) 垣浦 正二(笠 師) 井上 正一(金 丸) 泉 雄吉(町野町) 坂本 正就(若山町) 岩坂 善通(内 浦) 〈監査委員〉 藤沢 英一(庄 子) 国田 文治(豊 川)	(農政課38年5月まで 指導部38年5月より) 事務局長 北村 泰一 事務局 喜多 通夫
39年	上口 善一 (南 郷)	坂本 正就 (若山町) 西井 秀隆 (寺井町)	〈委員〉 藤沢 英一(庄 子) 中川 俊一(中 海) 原 栄吉(館 畑) 山田二三男(出 城) 金原 博(大 徳) 山川 進(富 樫) 西山 憲治(宇ノ気町) 久保 秀作(大 海) 杉野 久夫(中邑知) 越野弥寿雄(北 荘) 国田 文治(豊 川) 近間 幸夫(徳 田) 吉村 光広(穴水町) 泉 雄吉(町野町) 岩坂 善通(内 浦) 〈監査委員〉 北作 勇(戸 板) 中田 清(石 川)	(指導部) 事務局長 北村 泰一 事務局 喜多 通夫
40年	上口 善一 (南 郷)	金原 博 (大 徳) 垣浦 正二 (笠 師)	〈委員〉 那古谷秀一(三 木) 中川 俊一(中 海) 西井 秀隆(寺井町) 山田二三男(出 城) 中村 肇(石 川) 北作 勇(戸 板) 西山 憲治(宇ノ気町) 竹津 武治(高松町) 杉野 久夫(中邑知) 西屋与三次(富 永) 石川 秀市(田鶴浜) 吉村 光広(穴水町) 泉 雄吉(町野町) 坂本 正就(若山町) 岩坂 善通(内 浦) 〈監査委員〉 中村 良三(根上町東部) 西村 康賢(富 奥) 岩岸 政繁(門 前)	(指導部) 事務局長 北村 泰一 事務局 喜多 通夫
41年	上口 善一 (南 郷)	吉村 光広 (穴水町) 西村 康賢 (富 奥)	〈委員〉 那古谷秀一(三 木) 中村 良三(根上町東部) 畠山 忠幸(白 江) 中村 肇(石 川) 金原 博(大 徳) 南保 清(鞍 月) 加中 光雄(宇ノ気町) 竹津 武治(高松町) 西屋与三次(富 永) 松柳 義雄(余 喜) 垣浦 正二(笠 師) 山崎 勝次(田鶴浜) 岩岸 政繁(門 前) 乙脇善一郎(珠洲市) 吉谷 国雄(若山町) 〈監査委員〉 北作 勇(戸 板) 中川 俊一(中 海) 矢田 儀一(南大谷)	(指導部) 事務局長 北村 泰一 事務局 喜多 通夫
42年	垣浦 正二 (中島町)	中村 良三 (根上町) 崎川 和夫 (松 任)	〈委員〉 森 貞三(大聖寺) 向出 正雄(勅 使) 畠山 忠幸(白 江) 竹内 悦一(富 奥) 牛村 房夫(崎 浦) 徳野 清(森本町) 加中 光雄(宇ノ気町) 竹津 武治(高松町) 松柳 義雄(余 喜) 池本 理守(押水町) 堀岡喜久男(徳 田) 吉村 光広(穴水町) 木本 文雄(門前町) 大畠 武雄(珠洲市) 吉谷 国雄(若山町) 〈監査委員〉 辻森 博(羽咋市) 柴多 進(館 畑) 花谷 幸一(片山津)	(指導部) 事務局長 喜多 通夫 事務局 高井 勝己

年度	委員長	副委員長	委員・監査委員	事務局
43年	中村 良三 (根上町)	崎川 和夫 (松 任) 松柳 義雄 (余 喜)	〈委員〉 向出 正雄(勅 使) 花谷 幸一(片山津) 畠山 忠幸(白 江) 柴多 進(館 畑) 牛村 房夫(崎 浦) 徳野 清(森本町) 加中 光雄(宇ノ気町) 山崎 栄一(笠 谷) 辻森 博(羽咋市) 岩島 登(中島町) 直江 敬治(徳 田) 吉村 光広(穴水町) 木本 文雄(門前町) 大畠 武雄(珠洲市) 天保 正一(若山町) 〈監査委員〉 谷 省三(石 川) 北 市朗(押 野) 竹津 武治(高松町)	(指導部43年7月まで 営農教育部43年7月より) 事務局長 喜多 通夫 事務局 高井 勝己
44年	柴多 進 (館 畑)	徳野 清 (森本町) 岩島 登 (中島町)	〈委員〉 花谷 幸一(片山津) 奥村 仂(三 木) 片山 清隆(栗 津) 木津 茂(山上第一) 中村 克雄(御手洗) 北 市朗(押 野) 山崎 栄一(笠 谷) 坂下 邦夫(宇ノ気町) 松柳 義雄(余 喜) 辻森 博(羽咋市) 直江 敬治(徳 田) 吉村 光広(穴水町) 木本 文雄(門前町) 大畠 武雄(珠洲市) 天保 正一(若山町) 〈監査委員〉 中村 良三(根上町) 竹津 武治(高松町) 松田 惣策(押水町)	(営農教育部) 事務局長 喜多 通夫 事務局 高井 勝己
45年	柴多 進 (館 畑) (退任) 11月26日付 (着任) 11月26日付 徳野 清 (森本町)	徳野 清 (森本町) 松柳 義雄 (余 喜)	〈委員〉 小枝 一雄(庄) 畑中 俊男(柴 山) 竹田嘉一郎(牧) 西田 保(吉 田) 松下 幸嗣(柏 野) 北 市朗(押 野) 山崎 栄一(笠 谷) 竹中 彪(高松町) 松田 惣策(押水町) 岩島 登(中島町) 杉本 平治(鹿西町) 吉村 光広(穴水町) 中村 孝雄(門前町) 大畠 武雄(珠洲市) 禿 茂治(若山町) (着任) 11月26日付 柴多 進(館 畑) 〈監査委員〉 奥野 英一(橋 立) 山本 茂喜(富 奥) 門村 義雄(宇ノ気町)	(営農教育部) 事務局長 脇坂 保弘 事務局 高井 勝己
46年	松柳 義雄 (余 喜)	西田 保 (吉 田) 岩島 登 (中島町)	〈委員〉 奥野 英一(加賀市) 北河謙治郎(加賀市) 竹田嘉一郎(牧) 安実 吉直(山 島) 上田 俊夫(蝶 屋) 浦野鶴世志(崎 浦) 木村 竹雄(三 馬) 山崎 栄一(笠 谷) 竹中 彪(高松町) 松田 惣策(押水町) 杉本 平治(鹿西町) 中村 孝雄(門前町) 吉村 光広(穴水町) 日野 政信(宝立町) 禿 茂治(若山町) (着任) 7月1日付 辰野 善良(辰 巳) (退任) 7月1日付 浦野鶴世志(崎 浦) 〈監査委員〉 田中 瑞夫(林 中) 北 市朗(押 野) 中谷 藤作(能都町)	(営農教育部) 事務局長 脇坂 保弘 事務局 中西 快一
47年	安実 吉直 (松任市)	木村 竹雄 (三 馬) 中村 孝雄 (門前町)	〈委員〉 北河謙治郎(加賀市) 河崎 初雄(加賀市) 谷 義雄(寺井町) 竹田嘉一郎(牧) 野本 栄之(松任市) 北 市朗(押 野) 福村 勉(宇ノ気町) 竹中 彪(高松町) 松柳 義雄(羽咋市) 石崎 久信(西増穂) 浅田久富美(中島町) 池上弥一郎(鹿西町) 吉村 光広(穴水町) 日野 政信(宝立町) 禿 茂治(若山町) 〈監査委員〉 宮本 弘明(小松市) 北岡 良爾(富 奥) 鎌崎 進二(珠洲市)	(営農教育部) 事務局長 脇坂 保弘 事務局 中西 快一

年度	委員長	副委員長	委員・監査委員	事務局
48年	中村 孝雄 (門前町)	河崎 初雄 (加賀市) 禿 茂治 (若山町)	〈委員〉 野崎 進一(加賀市) 谷口喜代志(栗 津) 吉浦 廣(根上町) 中本 豊(松任市) 村本 弥(鶴来郷) 松浦 昇(崎 浦) 西村 俊一(戸 板) 福村 勉(宇ノ気町) 宮村 敏範(笠 谷) 石崎 久信(富来町) 西村 太助(羽咋市) 浅田久富美(中島町) 池上弥一郎(鹿西町) 吉村 光広(穴水町) 鎌崎 進二(珠洲市) 〈監査委員〉 細川 広江(松任市) 中田 茂男(額) 林 太郎(徳 田)	(営農教育部) 事務局長 脇坂 保弘 事務局 中西 快一
49年	河崎 初雄 (加賀市)	吉浦 廣 (根上町) 西村 太助 (羽咋市)	〈委員〉 松村 良行(加賀市) 中田 健(小松市) 藤本登茂之(松任市) 竹田 嗣吉(鶴来町) 南野 明夫(金沢市) 吉田 忠夫(金沢市中央) 石本 喜一(津 幡) 沢本 正一(宇ノ気町) 出村 弘(富来町) 関塚 良(中島町) 梅田 勇(鳥屋町) 谷内 栄一(門前町) 新本 太二(穴水町) 高枝 正昭(宝立町) 干場 一郎(三崎町) 〈監査委員〉 柏野 正和(松任市) 畝田 与久(金沢市中央) 小山 隆博(高松町)	(営農教育部49年6月まで 農政営農部49年6月より) 事務局長 脇坂 保弘 49年6月退任 北山 元弘 49年6月就任 事務局 中西 快一
50年	藤本登茂之 (松任市)	立花 弥吉 (寺井町) 沢本 正一 (宇ノ気町)	〈委員〉 松村 良行(加賀市) 西本 清治(加賀市) 吉田 義輝(板 津) 藤田 智広(松任市) 吉田 忠夫(金沢市中央) 的場 貞(金沢市) 石本 喜一(津 幡) 山上 一郎(羽咋市) 大橋 悟(富来町) 関塚 良(中島町) 川越 隆(七尾市) 谷内 栄一(門前町) 東崎 充平(能都町) 岡田 肇(内浦町) 平野 松蔵(若山町) 〈監査委員〉 北村 弘司(小松市) 吉岡 克己(富 奥) 保志場 堯(羽咋市)	(農政営農部50年8月まで 組織部50年8月より) 事務局長 北山 元弘 事務局 中西 快一 50年8月退任 事務局長 西川 彰 事務局 西谷 光二 50年8月就任
51年	藤本登茂之 (松任市)	立花 弥吉 (寺井町) 沢本 正一 (宇ノ気町)	〈委員〉 松村 良行(加賀市) 川上 幸一(加賀市) 北村 弘司(小松市) 古河 恒俊(松任市) 順教寺正信(金沢市) 今井 巖(金沢市中央) 葛葉 捷三(高松町) 山上 一郎(羽咋市) 泉 貢(富来町) 梅田 勇(鳥屋町) 大西権四郎(鹿西町) 谷内 栄一(門前町) 東崎 充平(能都町) 地渡 整(若山町) 皆口 和寛(珠洲市) 〈監査委員〉 吉本外茂治(富 奥) 前田 勝紀(金沢市) 関塚 良(中島町)	(組織部) 事務局長 西川 彰 事務局 西谷 光二
52年	沢本 正一 (宇ノ気町)	前田 勝紀 (金沢市) 東崎 充平 (能都町)	〈委員〉 川上 幸一(加賀市) 東出 幹生(加賀市) 泉 豊(小松市) 和多 昇(能美郡) 亀田 勉(松任市) 松原 健一(鶴来郷) 今井 巖(金沢市中央) 井村 義一(津 幡) 渡 勝己(羽咋市) 赤池 明(押水町) 大西権四郎(鹿西町) 山本 正雄(中島町) 大作 哲男(門前町) 地渡 整(若山町) 皆口 和寛(珠洲市) 〈監査委員〉 吉田 義輝(小松市板津) 上田 敏行(松任市) 新本 大二(穴水町)	(組織部) 事務局長 西川 彰 事務局 中西 快一
53年	今井 巖 (金沢市中央)	松原 健一 (鶴来郷) 大西権四郎 (鹿西町)	〈委員〉 川上 幸一(加賀市) 田中 博和(加賀市) 和多 昇(能美郡) 上田 宏(小松市) 保古 文一(松任市) 村田 英一(金沢市) 井村 儀一(津 幡) 中田 春雄(宇ノ気町) 赤池 明(押水町) 砂崎 久正(富来町) 山本 正雄(中島町) 大作 哲男(門前町) 川畑 一政(能都町) 村吉 嶺夫(珠洲市) 宮腰 正男(珠洲市) 〈監査委員〉 新記 正岑(根上町) 平野 三男(松任市) 東崎 充平(能都町)	(組織部53年4月まで 農政広報部農政課 53年4月より) 事務局長 西川 彰 53年4月退任 喜多 通夫 53年4月就任 事務局 中西 快一

年度	委員長	副委員長	委員・監査委員	事務局
54年	大西権四郎 (鹿西町)	和多 昇 (能美郡) 大作 哲男 (門前町)	〈委員〉 田中 博和 (加賀市) 西出 清次 (加賀市) 西方 洋治 (小松市) 相古 誠一 (松任市) 松原 周映 (松任市) 藤井 国知 (金沢市) 石黒 邦雄 (金沢市中央) 中田 春雄 (宇ノ気町) 竹田信一郎 (津 幡) 赤池 明 (押水町) 渡 勝己 (羽咋市) 山本 正雄 (中島町) 新本 大二 (穴水町) 宮腰 正男 (珠洲市) 又多 良一 (内浦町) 〈監査委員〉 西田 成徳 (加賀市) 吉本 豊 (金沢市) 葛葉 捷三 (高松町)	(農政広報部農政課) 事務局長 喜多 通夫 事務局 中西 快一 54年4月退任 事務局長 宮本 義典 事務局 西井秀一郎 54年4月就任
55年	相古 誠一 (松任市)	高島 菊丸 (金沢市中央) 宮腰 正男 (珠洲市)	〈委員〉 田中 博和 (加賀市) 但馬 秀朗 (加賀市) 北村 弘司 (小松市) 南 恒紀 (寺井町) 松原 周映 (松任市) 池野 秀伸 (金沢市) 松村 吉晃 (宇ノ気町) 源田 嘉一 (津 幡) 渡 勝己 (羽咋市) 吉島 衛 (富来町) 酒井 三夫 (七尾市) 山本 正雄 (中島町) 森岡 吉雄 (門前町) 新 慧 (町野町) 藤原 哲雄 (内浦町) 〈監査委員〉 下津 源和 (加賀市) 宮岡金次郎 (小松市板津) 村上 義弘 (押水町)	(農政広報部農政課 55年7月まで 農政広報部組織広報課 55年7月より) 事務局長 宮本 義典 55年7月退任 北山 元弘 55年7月就任 事務局 西井秀一郎
56年	宮腰 正男 (珠洲市)	高島 菊丸 (金沢市中央) 渡 勝己 (羽咋市)	〈委員〉 但馬 秀朗 (加賀市) 北村 武彦 (加賀市) 北村 弘司 (小松市) 村上 清忠 (川北町) 北井 丈夫 (松任市) 中田 善博 (鶴来郷) 中山 善彦 (金沢市) 源田 嘉一 (津 幡) 松村 吉晃 (宇ノ気町) 村上 義弘 (押水町) 宮川 四郎 (鳥屋町) 福島 正夫 (中島町) 森岡 吉雄 (門前町) 新 慧 (町野町) 大屋 貢 (内浦町) 〈監査委員〉 敷村 友行 (加賀市) 内村 栄一 (野々市町) 国田 輝昭 (中島町)	(農政広報部組織広報課 56年7月まで 農政広報部農政課 56年7月より) 事務局長 北山 元弘 事務局 西井秀一郎 56年7月退任 事務局長 宮本 義典 事務局 牧 康晴 56年7月就任
57年	高島 菊丸 (金沢市中央)	徳田 久昭 (松任市) 福島 正夫 (中島町)	〈委員〉 北村 武彦 (加賀市) 但馬 秀朗 (加賀市) 南 勝弥 (能美郡) 上野 一雄 (小松市) 内村 栄一 (野々市町) 中山 善彦 (金沢市) 多田 久信 (宇ノ気町) 新木 賢治 (津 幡) 村上 義弘 (押水町) 辻本 長衛 (羽咋市) 宮川 四郎 (鳥屋町) 森岡 吉雄 (門前町) 小坂 孝志 (能都町) 米谷 守 (珠洲市) 大屋 貢 (内浦町) 〈監査委員〉 宮岡金次郎 (小松市板津) 山本 利男 (富来町) 宮崎 政吉 (宇ノ気町)	(生活広報部) 事務局長 奥村 晃 事務局 中西 快一
58年	宮岡金次郎 (小松市板津)	松川 久昭 (松任市) 大屋 貢 (内浦町)	〈委員〉 北村 武彦 (加賀市) 森 保太郎 (加賀市) 南 勝弥 (能美郡) 竹内 茂男 (鶴来郷) 奥田 宗信 (金沢市) 浅田 明雄 (金沢中央) 北本弥須男 (宇ノ気町) 岩田 一徳 (津 幡) 中橋 義雄 (志雄町) 下町 重芳 (富来町) 宮川 四郎 (鳥屋町) 宮田 一朗 (鹿西町) 小坂 孝志 (能都町) 中瀬 晴夫 (柳田村) 米谷 守 (珠洲市) 〈監査委員〉 内村 栄一 (野々市町) 橋本 光司 (加賀市) 山 清志 (羽咋市)	(生活広報部) 事務局長 奥村 晃

年度	委員長	副委員長	委員・監査委員	事務局
59年	大屋 貢 (内浦町)	浅田 明雄 (金沢中央) 森 保太郎 (加賀市)	〈委員〉 橋本 光司 (加賀市) 浅野 清利 (小松市) 門田 吉守 (川北町) 原 友一 (松任市) 中村 脩二 (富 奥) 宮下 清 (金沢市) 岩田 一徳 (津 幡) 川瀬 崇由 (宇ノ気町) 山 清志 (羽咋市) 下町 重芳 (富来町) 道端 五郎 (中島町) 齊藤 修市 (鹿西町) 小坂 孝志 (能都町) 中瀬 晴夫 (柳田村) 新 五十八 (珠洲市) (着任) 11月12日付 山本 利男 (富来町) (退任) 11月12日付 下町 重芳 (富来町) 〈監査委員〉 菊川 嘉門 (栗 津) 潟辺 政一 (羽咋市) 高森 正博 (中島町)	(営農農政部) 事務局長 中西 快一 事務局 牧 康晴
60年	森 保太郎 (加賀市)	田中 新治 (金沢市) 岩田 一徳 (津 幡)	〈委員〉 田中 政栄 (加賀市) ②浅野 清利 (小松市) 田方 勇 (寺井町) 林 弘之 (松任市) ③栗山源一郎 (富 奥) 亀井外志博 (金沢中央) 中井 清 (宇ノ気町) 中村 茂好 (志雄町) 松田 勝治 (押水町) 中村 秀雄 (中島町) 池本 征一 (鹿西町) ④中瀬 晴夫 (柳田村) 大村 正博 (門前町) 片岡 秋一 (穴水町) 新 五十八 (珠洲市) 〈監査委員〉 上田 章 (金沢市) 土井原健二 (鶴来郷) 小谷 泉喜 (輪島市)	(営農農政部) 事務局長 中西 快一 事務局 南 和樹
61年	田中 新治 (金沢市)	石田 正憲 (松任市) 大村 正博 (門前町)	〈委員〉 ②田中 政栄 (加賀市) 西村宗一郎 (加賀市) 浅野 清利 (小松市) 山田 晃 (能美郡) 高橋 進一 (松任市) ④亀井外志博 (金沢中央) 得能 順市 (津 幡) 藤田 範久 (宇ノ気町) 松田 勝治 (押水町) 山 清志 (羽咋市) 土本 登 (鳥屋町) ⑤道端 五郎 (中島町) 片岡 秋一 (穴水町) 小谷 泉喜 (輪島市) 皆口 和寛 (珠洲市) 〈監査委員〉 西藤 元則 (根上町) 山下 等 (金沢市) 川原 義正 (町野町)	(農政広報課) 事務局長 中西 快一 事務局 南 和樹
62年	大村 正博 (門前町)	浅野 清利 (小松市) 皆口 和寛 (珠洲市)	〈委員〉 田中 政栄 (加賀市) 灰谷 信孝 (加賀市) 西藤 元則 (根上町) 宮西 市雄 (松任市) ②北田 幸光 (鶴来郷) ④杉林 孝幸 (金沢中央) 河内 専吉 (金沢市) 得能 順市 (津 幡) 川西 清進 (宇ノ気町) ⑤山 清志 (羽咋市) 中本 義一 (富来町) 土本 登 (鳥屋町) 高森 正博 (中島町) 片岡 秋一 (穴水町) 川原 義正 (町野町) 〈監査委員〉 中嶋 憲一 (野々市町) 村上 幸作 (津 幡) 東 久男 (内浦町)	(農政広報課) 事務局長 中西 快一 事務局 南 和樹
63年	田中 政栄 (加賀市)	吉崎 吉規 (松任市) 川原 義正 (町野町)	〈委員〉 辻 新太郎 (山中町) 浅野 清利 (小松市) 山先 守夫 (能美郡) 館 喜美雄 (鶴来郷) ②杉林 孝幸 (金沢中央) ④河内 専吉 (金沢市) ⑤得能 順市 (津 幡) 小幡 誠 (宇ノ気町) 網 吉裕 (志雄町) 高 文雄 (富来町) 高森 正博 (中島町) 木下 豊秋 (中島町) 神村 晃 (門前町) 東 久男 (内浦町) 長谷 一博 (珠洲市) 〈監査委員〉 米田 敏数 (牧) 村田 盛幸 (羽咋市) 道辺 要助 (穴水町)	(農政広報課) 事務局長 中西 快一 事務局 南 和樹
平成 元年	吉崎 吉規 (松任市)	森 政幸 (金沢市) 得能 順市 (津 幡)	〈委員〉 ⑤灰谷 信孝 (加賀市) 村井 良一 (加賀市) ④米田 敏数 (牧) 西藤 元則 (根上町) 館 喜美雄 (鶴来郷) 横長 茂登 (金沢中央) 山崎 武志 (津 幡) 浜谷 六郎 (押水町) 網 吉裕 (志雄町) 国田 堅吉 (中島町) 関塚 弘志 (中島町) 道辺 要助 (穴水町) 坂口 茂 (門前町) ⑥東 久男 (内浦町) 宮崎 幸彦 (珠洲市) 〈監査委員〉 北村 市範 (松任市) 河内 専吉 (金沢市) 紺谷 俊彦 (柳田村)	(農政課) 事務局長 中西 快一 事務局 牧 康晴

②：組織部長、③：農政部長、④：営農部長、⑤：文化部長、⑥：文化情報部長、⑦：地域交流部長、⑧：営農農政部長
 ※資料のある昭和60年度以降の専門部長を表記

年度	委員長	副委員長	委員・監査委員	事務局
2年	森 政幸 (金沢市)	田丸 孝誠 (松任市) 得能 順市 (津 幡)	〈委員〉 ㊦灰谷 信孝(加賀市) 梅田 敏彦(加賀市) ㊦中谷 進一(小松市) 西藤 元則(根上町) 高橋 吉隆(野々市町) 横長 茂登(金沢中央) 大石 正栄(宇ノ気町) 野村 清志(押水町) 酒井 進(羽咋市) 国田 堅吉(中島町) 長尾 春男(七尾中央) 道辺 要助(穴水町) ㊦坂口 茂(門前町) 武藤 利夫(内浦町) 谷内前吉昭(珠洲市) 〈監査委員〉 北山 實(能美郡) 山崎 正(津 幡) 土本 登(鳥屋町)	(農政課) 事務局長 山本 幸雄 事務局 牧 康晴
3年	田丸 孝誠 (松任市)	中谷 進一 (小松市) 谷内前吉昭 (珠洲市)	〈委員〉 梅田 敏彦(加賀市) 坂本 文栄(加賀市) 深元 錦成(能美郡) 村田 昇(富 奥) ㊦本田 昌樹(金沢中央) ㊦小林 博紀(金沢市) 吉田 勝明(津 幡) 荒木 義雄(宇ノ気町) ㊦榎谷 武史(羽咋市) 岡本 有友(富来町) 宮本 孫則(七尾中央) 関塚 弘志(中島町) 中村 隆一(門前町) 下 良樹(柳田村) 武藤 利夫(内浦町) 〈監査委員〉 宮竹 節(加賀市) 干場 博(羽咋市) 土本 登(鳥屋町)	(農政課) 事務局長 山本 幸雄 事務局 牧 康晴
4年	谷内前吉昭 (すずし)	小林 博紀 (金沢市) 中村 隆一 (門前町)	〈委員〉 ㊦梅田 敏彦(加賀市) 坂本 文栄(加賀市) ㊦村永 利隆(イタヅ) 深元 錦成(能美郡) 竹山 武志(松 任) 木滑 亘(つるぎ郷) ㊦本田 昌樹(金沢中央) ㊦井上 亮一(津 幡) 末広 孝一(宇ノ気町) 榎谷 武史(はくい市) 岡本 有友(富来町) 宮本 孫則(七尾中央) 寺田喜代志(中島町) 松谷 弘(町野町) 中野 正人(内浦町) 〈監査委員〉 北村 利夫(松 任) 荒井 清(金沢市) 加代 正(穴水町)	(政策推進課) 事務局長 今井外三夫 事務局 西 利章
5年	本田 昌樹 (金沢中央)	小林 博紀 (金沢市) 坂本 文栄 (加賀市)	〈委員〉 瀬戸 将人(加賀市) ㊦舩田 金隆(牧) 佐々木浩然(能美郡) ㊦小坂 一二(松 任) 本 敏夫(松 任) 西本 正和(津 幡) 川西 清進(宇ノ気町) ㊦榎谷 武史(はくい市) 岡本 有友(富来町) 宮本 孫則(七尾中央) 寺田喜代志(中島町) ㊦加代 正(穴水町) 松谷 弘(町野町) 中野 正人(内浦町) 宮崎 幸彦(すずし) 〈監査委員〉 稲手 満(小松市) 荒井 清(金沢市) 池上 勝治(鹿西町)	(政策推進課) 事務局長 南 和樹 事務局 西 利章
6年	小林 博紀 (金沢市)	坂本 文栄 (加賀市) 榎谷 武史 (はくい市)	〈委員〉 下出 隆志(加賀市) 木戸 太志(栗 津) ㊦江口 隆(寺井町) ㊦永言 勇吉(松 任) 村田 与好(つるぎ郷) ㊦稲本 勝彦(金沢中央) 山本 由明(石川かほく) 猪村 博靖(石川かほく) 松田 勝治(押水町) 岡本 有友(富来町) 宮本 孫則(能登わかば) ㊦勝井 寛(穴水町) 上田 義正(輪島市) 畑下 政美(内浦町) 宮崎 幸彦(すずし) 〈監査委員〉 野田 栄一(加賀市) 西本 正和(石川かほく) 加代 正(穴水町)	(営農政策課) 事務局長 西井秀一郎 事務局 西 利章
7年	坂本 文栄 (加賀市)	稲本 勝彦 (金沢中央) 榎谷 武史 (はくい市)	〈委員〉 下出 隆志(加賀市) ㊦北口 彬(小松市) 山岸 正賢(能美郡) 北村 正樹(松 任) ㊦中西 高志(松 任) ㊦小松 敏昭(金沢市) 井村 義則(石川かほく) 細川 禎洋(石川かほく) 橋 徹男(富来町) 奥村外志治(能登わかば) 玄田 春樹(能登わかば) ㊦東崎 力夫(おおぞら) 池口 寛人(町野町) 畑下 政美(内浦町) 瀬法司忠良(すずし) 〈監査委員〉 作田 正博(つるぎ郷) 荒井 清(金沢市) 村上 義弘(押水町)	(政策推進課) 事務局長 中西正太郎 事務局 西 利章

㊦：組織部長、㊦：農政部長、㊦：営農部長、㊦：文化部長、㊦：文化情報部長、㊦：地域交流部長、㊦：営農農政部長
※平成4年度からは、J A名で表記

年度	委員長	副委員長	委員・監査委員	事務局
8年	稲本 勝彦 (金沢中央)	梶谷 武史 (はくい市) 東崎 力夫 (おおぞら)	〈委員〉 ㊦下出 隆志 (加賀市) 西口 昭治 (加賀市) 橋本 稔 (小松市) 中町 英樹 (根 上) 中谷 淳 (松 任) ㊦高野 勉 (松 任) ㊦出村 和一 (金沢市) 東 茂雄 (石川かほく) 井波 助雄 (石川かほく) ㊦橋 徹男 (富来町) 松本 正 (町野町) 瀬法司忠良 (すずし) 吉田 輝行 (すずし) 〈監査委員〉 山岸 正賢 (能美郡) 辻 修 (つるぎ郷) 勝井 寛 (おおぞら)	(政策推進部) 事務局長 中西正太郎 事務局 川本 幸進
9年	梶谷 武史 (はくい市)	西口 昭治 (加 賀) 松本 正 (町野町)	〈委員〉 宮永 久志 (加 賀) 北野 眞次 (小松市) ㊦中町 英樹 (根 上) 津田 睦美 (松 任) ㊦村田 義雄 (つるぎ郷) 松下 良久 (金沢中央) ㊦小松 敏昭 (金沢市) 得能 久義 (石川かほく) 加藤 篤 (石川かほく) 三輪 和良 (はくい市) ㊦道辺 要助 (おおぞら) 瀬法司忠良 (すずし) 吉田 輝行 (すずし) 〈監査委員〉 駒野 信宏 (加 賀) 出村 和一 (金沢市) 西本 正和 (石川かほく)	(政策推進部) 事務局長 西井秀一郎 事務局 川本 幸進
10年	中町 英樹 (根 上)	宮永 久志 (加 賀) 松下 良久 (金沢中央)	〈委員〉 ㊦駒野 信宏 (加 賀) 大野 幸雄 (小松市) 高野 勉 (松 任) ㊦藤田 正人 (松 任) 山本 敏之 (金沢市) ㊦加藤 篤 (石川かほく) 西本 正和 (石川かほく) 中田登志夫 (はくい) 北江 克伸 (はくい) ㊦井上 芳希 (おおぞら) 中村 祐治 (おおぞら) 穴田 秀次 (すずし) 板谷 儀博 (すずし) 〈監査委員〉 西口 昭治 (加 賀) 寺岸 慶人 (つるぎ郷) 松本 正 (町野町)	(総合対策部) 事務局長 津田 睦美 事務局 川本 幸進
11年	宮永 久志 (加 賀)	藤田 正人 (松 任) 加藤 篤 (石川かほく)	〈委員〉 茶谷 潔 (加 賀) ㊦久保 一夫 (小松市) 地嶋 広久 (小松市) 久田 義博 (能 美) 岡田 武洋 (根 上) 本田 勉 (つるぎ郷) 北川 博之 (金沢中央) ㊦宮前 重雄 (金沢市) 池本 孝明 (石川かほく) 川島 亮一 (はくい) 池本 直彦 (はくい) ㊦中村 祐治 (おおぞら) 松谷 宏 (町野町) 穴田 秀次 (すずし) 板谷 儀博 (すずし) 〈監査委員〉 松下 久良 (金沢中央) 井上 芳希 (おおぞら)	(総合対策部) 事務局長 南 和樹 事務局 川本 幸進
12年	藤田 正人 (松 任)	地嶋 広久 (小松市) 加藤 篤 (石川かほく)	〈委員〉 ㊦茶谷 潔 (加 賀) 山根 康夫 (加 賀) 木戸 太志 (小松市) 北出 隆 (能 美) 岡田 武洋 (根 上) 西田 昌喜 (松 任) 北川 博之 (金沢中央) ㊦宮前 重雄 (金沢市) 柴木朝余司 (石川かほく) 川島 亮一 (はくい) 池本 直彦 (はくい) ㊦清田 和之 (おおぞら) 松谷 宏 (町野町) 穴田 秀次 (すずし) 板谷 儀博 (すずし) 〈監査委員〉 本田 勉 (つるぎ郷) 中村 祐治 (おおぞら)	(総合対策部) 事務局長 南 和樹 事務局 川本 幸進
13年	加藤 篤 (石川かほく)	山根 康夫 (加 賀) 清田 和之 (おおぞら)	〈委員〉 小坂 浩幸 (加 賀) ㊦木戸 太志 (小松市) 中田 耕二 (小松市) 岡田 武洋 (根 上) 佐野 晴良 (能 美) ㊦西田 昌喜 (松 任) 北 明男 (富 奥) ㊦井村 正信 (金沢中央) 木野 秀秋 (金沢市) 河内 茂 (石川かほく) 松谷 宏 (町野町) 〈監査委員〉 地嶋 広久 (小松市) 宮前 重雄 (金沢市)	(総合対策部) 事務局長 西井秀一郎 事務局 川本 幸進

㊦：組織部長、㊦：農政部長、㊦：営農部長、㊦：文化部長、㊦：文化情報部長、㊦：地域交流部長、㊦：営農農政部長

年度	委員長	副委員長	委員・監査委員	事務局
14年	清田 和之 (おおぞら)	小坂 浩幸 (加 賀) 井村 正信 (金沢中央)	〈委員〉 河田 孝治(加 賀) ㊟吉田 一義(小松市) 川南 仁平(小松市) 岡田 武洋(根 上) 東 孫司朗(能 美) 安実 隆直(松 任) 北 明男(富 奥) ㊟横野 裕幸(金沢市) ㊟河内 茂(石川かほく) 洞庭 裕(石川かほく) 松本 正(町野町) 砂後谷正豊(すずし) 〈監査委員〉 山根 康夫(加 賀) 木戸 太志(小松市)	(農業対策部) 事務局長 牧 康晴 事務局 川本 幸進
15年	横野 裕幸 (金沢市)	吉田 一義 (小松市) 安実 隆直 (松 任)	〈委員〉 ㊟河田 孝治(加 賀) 土山 恭弘(加 賀) 伊勢 秀司(小松市) 橘 治輝(根 上) 中田 浩一(能 美) 西田 英次(つるぎ郷) 高畠 善将(金沢中央) 河内 茂(石川かほく) ㊟村井 秀則(石川かほく) ㊟干場登志男(おおぞら) 松本 正(町野町) 砂後谷正豊(すずし) 〈監査委員〉 小坂 浩幸(加 賀) 前田 悟(金沢市)	(総務部) 事務局長 西 利章
16年	安実 隆直 (松 任)	土山 恭弘 (加 賀) 前田 悟 (金沢市)	〈委員〉 村井 靖(加 賀) 安田 和夫(小松市) 伊勢 秀司(小松市) 岡元 豊(根 上) 西田 清和(能 美) 相古 和裕(松 任) ㊟西田 英次(つるぎ郷) 高畠 善将(金沢中央) 松崎 兼秀(金沢市) 本多 政徳(石川かほく) ㊟村井 秀則(石川かほく) ㊟干場登志男(おおぞら) 松本 正(町野町) 砂後谷正豊(すずし) 〈監査委員〉 河田 孝治(加 賀) 河内 茂(石川かほく)	(総務部) 事務局長 西 利章
17年	西田 英次 (つるぎ郷)	土山 恭弘 (加 賀) 村井 秀則 (石川かほく)	〈委員〉 村井 靖(加 賀) 安田 和夫(小松市) 若山 和夫(小松市) 中川 史崇(根 上) 西田 清和(能 美) 相古 和裕(松 任) 北村 市志(松 任) ㊟高畠 善将(金沢中央) ㊟松崎 兼秀(金沢市) 中本 征宏(金沢市) 勝田 貞治(石川かほく) ㊟干場登志男(おおぞら) 松本 正(町野町) 砂後谷正豊(すずし) 〈監査委員〉 吉田 都佳(加 賀) 早崎 長人(つるぎ郷)	(企画教育部) 事務局長 西 利章
18年	土山 恭弘 (加 賀)	福田 康浩 (富 奥) 中本 征宏 (金沢市)	〈委員〉 ㊟村井 靖(加 賀) 吉田 都佳(加 賀) 安田 和夫(小松市) 宮越 正広(小松市) 岡元 豊(根 上) 前 庄治(能 美) 北村 健一(松 任) ㊟北村 市志(松 任) 出口 健一(金沢中央) 本保 輝彦(金沢市) ㊟高木 悦夫(石川かほく) 勝田 貞治(石川かほく) 高尾 智之(おおぞら) 松本 正(町野町) 兼田 正義(すずし) 〈監査委員〉 松崎 兼秀(金沢市) 村井 秀則(石川かほく)	(企画教育部) 事務局長 西 利章 事務局 北本恵美子
19年	土山 恭弘 (加 賀)	中本 征宏 (金沢市) 高尾 智之 (おおぞら)	〈委員〉 ㊟吉田 都佳(加 賀) 上田 恭央(加 賀) 宮越 正広(小松市) 山下 吉和(小松市) 橘 治輝(根 上) 前 庄治(能 美) ㊟北村 健一(松 任) ㊟黒澤 与典(松 任) 土井原直人(白 山) 出口 健一(金沢中央) 本保 輝彦(金沢市) 中本 直輝(石川かほく) 村井 敬也(石川かほく) 松本 正(町野町) 兼田 正義(すずし) 〈監査委員〉 南 優(金沢市) 高木 悦夫(石川かほく)	(企画教育部) 事務局長 山岸 正博 事務局 川本 幸進

㊟：組織部長、㊟：農政部長、㊟：営農部長、㊟：文化部長、㊟：文化情報部長、㊟：地域交流部長、㊟：営農農政部長

年度	委員長	副委員長	委員・監査委員	事務局
20年	中本 征宏 (金沢市)	黒澤 与典 (松 任) 高尾 智之 (おおぞら)	〈委員〉 ⑤上田 恭央(加 賀) 小西 一司(加 賀) 宮越 正広(小松市) 西出 忠夫(小松市) 中川 史崇(根 上) 池田 一弘(能 美) 田中 良一(松 任) 村本 隆明(白 山) ⑤北川 和也(金沢中央) ⑤南 優(金沢市) 高木 悦夫(石川かほく) 渡辺 保之(石川かほく) 松本 正(町野町) 後谷 亨(すずし) 〈監査委員〉 北村 健一(松 任) 本保 輝彦(金沢市)	(農業対策部) 事務局長 吉田 諭 事務局 川本 幸進
21年	南 優 (金沢市)	上田 恭央 (加 賀) 高尾 智之 (おおぞら)	〈委員〉 津川与史寿(加 賀) 城下弥一郎(小松市) ⑤西出 忠夫(小松市) 中川 史崇(根 上) 池田 一弘(能 美) 松田 吉弘(松 任) ⑤田中 良一(松 任) 北岸 健(白 山) ⑤寺尾 将明(金沢中央) 正野 義栄(金沢市) 渡辺 保之(石川かほく) 長谷 直秀(石川かほく) 尾久 庄造(すずし) 金田 清作(すずし) 〈監査委員〉 黒澤 与典(松 任) 本保 輝彦(金沢市)	(農業対策部) 事務局長 吉田 諭 事務局 川本 幸進
22年	黒澤 与典 (松 任)	城下弥一郎 (小松市) 高尾 智之 (おおぞら)	〈委員〉 大中 康弘(加 賀) 吉澤 孝(加 賀) 蕪城 新(小松市) 中川 史崇(根 上) 山田 崇(能 美) ⑤北村 健一(松 任) 松田 吉弘(松 任) 中村 春樹(白 山) ⑤寺尾 将明(金沢中央) 荒木 健一(金沢中央) ⑤本保 輝彦(金沢市) 山根 智久(金沢市) 渡辺 保之(石川かほく) 長谷 直秀(石川かほく) 豊平 慶二(すずし) 角花 幸伸(すずし) 〈監査委員〉 上田 恭央(加 賀) 池田 一弘(能 美)	(農業対策部) 事務局長 本 光雄 事務局 川本 幸進
23年	高尾 智之 (おおぞら)	蕪城 新 (小松市) 本保 輝彦 (金沢市)	〈委員〉 吉澤 孝(加 賀) 東野 真樹(加 賀) 加藤 晃一(小松市) 村井俊一郎(根 上) ⑤堀川 陽一(能 美) 中橋 宏一(松 任) 横山 秀治(松 任) 竹田 隆明(白 山) 荒木 健一(金沢中央) ⑤東野 明(金沢市) 渡辺 保之(石川かほく) 中本 直輝(石川かほく) ⑤谷内 一郎(おおぞら) 板谷 儀博(すずし) 登谷 隆(すずし) 〈監査委員〉 城下弥一郎(小松市) 北村 健一(松 任)	(農業対策部) 事務局長 本 光雄 事務局 川本 幸進
24年	高尾 智之 (おおぞら)	加藤 晃一 (小松市) 東野 明 (金沢市)	〈委員〉 高澤 浩志(加 賀) 東出 孝紀(加 賀) ⑤北 哲也(小松市) 村井俊一郎(根 上) 安地 正史(能 美) 北西 幸治(白 山) ⑤中橋 宏一(松 任) 横山 秀治(松 任) 朝倉 崇(金沢中央) 菊知 亮(金沢市) 渡辺 保之(石川かほく) 中山 正樹(石川かほく) ⑤谷内 一郎(おおぞら) 畑中 幹雄(すずし) 向 誠(すずし) 〈監査委員〉 蕪城 新(小松市) 荒木 健一(金沢中央)	(農業対策部) 事務局長 吉田 諭 事務局 稲川 貴之
25年	加藤 晃一 (小松市)	高澤 浩志 (加 賀) 東野 明 (金沢市)	〈委員〉 吉田 義弘(加 賀) ⑤北 哲也(小松市) 村井俊一郎(根 上) 安地 正史(能 美) 安田 利之(白 山) 北村 悟(松 任) ⑤横山 秀治(松 任) ⑤朝倉 崇(金沢中央) 菊知 亮(金沢市) 渡辺 保之(石川かほく) 中山 正樹(石川かほく) 高尾 智之(おおぞら) 谷内 一郎(おおぞら) 大兼政康秀(すずし) 向 誠(すずし) 〈監査委員〉 蕪城 新(小松市) 北西 幸治(白 山)	(農業対策部) 事務局長 吉田 諭 事務局 稲川 貴之

⑤：組織部長、⑥：農政部長、⑦：営農部長、⑧：文化部長、⑨：文化情報部長、⑩：地域交流部長、⑪：営農農政部長

年度	委員長	副委員長	委員・監査委員	事務局
26年	吉田 義弘 (加 賀)	朝倉 崇 (金沢中央) 東野 明 (金沢市)	〈委員〉 東出 秀昭(加 賀) ㊟北 哲也(小松市) 中田 栄二(小松市) 村井俊一郎(根 上) 安地 正史(能 美) 早崎 真由(白 山) 北村 悟(松 任) 堀本 外司(松 任) 菊知 亮(金沢市) 渡辺 保之(石川かほく) 森澤 健作(石川かほく) ㊟高尾 智之(おおぞら) 谷内 一郎(おおぞら) 〈監査委員〉 高澤 浩志(加 賀) 北西 幸治(白 山)	(農業対策部) 事務局長 吉田 諭 事務局 稲川 貴之
27年	北西 幸治 (白 山)	中田 栄二 (小松市) 東野 明 (金沢市)	〈委員〉 灰谷 信剛(加 賀) 吉田 義弘(加 賀) 孫崎 浩(小松市) ㊟村井俊一郎(根 上) 安地 正史(能 美) 権野 勇一(松 任) ㊟堀本 外司(松 任) 諸江 隆喜(金沢中央) 岡本 勲(金沢市) 渡辺 保之(石川かほく) 森澤 健作(石川かほく) ㊟高尾 智之(おおぞら) 谷内 一郎(おおぞら) 〈監査委員〉 高澤 浩志(加 賀) 朝倉 崇(金沢中央)	(農業対策部) 事務局長 吉田 諭 27年12月退任 事務局長 西 利章 27年12月就任 事務局 稲川 貴之
28年	灰谷 信剛 (加 賀)	孫崎 浩 (小松市) 東野 明 (金沢市)	〈委員〉 丸山 充雄(加 賀) 吉田 成豊(小松市) 村井俊一郎(根 上) 西田 泰也(能 美) ㊟山本 洋平(白 山) 上田 伸也(松 任) 東 由頼(松 任) ㊟諸江 隆喜(金沢中央) 岡本 勲(金沢市) 村井 敬也(石川かほく) 和田森友貴(石川かほく) ㊟高尾 智之(おおぞら) 谷内 一郎(おおぞら) 〈監査委員〉 中田 栄二(小松市) 堀本 外司(松 任)	(地域振興部) 事務局長 東方 太喜 事務局 稲川 貴之
29年	孫崎 浩 (小松市)	丸山 充雄 (加 賀) 正来 康志 (金沢市)	河田 克明(加 賀) 木内 達也(小松市) ㊟村井俊一郎(根 上) 西田 泰也(能 美) ㊟山本 洋平(白 山) 東 由頼(松 任) 木田 敦志(松 任) ㊟諸江 隆喜(金沢中央) 西川 克一(金沢市) 村井 敬也(石川かほく) 和田森友貴(石川かほく) 谷内 一郎(おおぞら) 〈監査委員〉 上田 伸也(松 任) 岡本 勲(金沢市)	(地域振興部) 事務局長 川本 幸進 事務局 稲川 貴之
30年	孫崎 浩 (小松市)	高本 祐輔 (白 山) 正来 康志 (金沢市)	河田 克明(加 賀) 南出 俊介(加 賀) ㊟木内 達也(小松市) ㊟村井俊一郎(根 上) 松岡登至也(能 美) 寺口 直宏(白 山) 木田 敦志(松 任) 西本 豊(松 任) 辻 哲典(金沢中央) ㊟西川 克一(金沢市) 村井 敬也(石川かほく) 和田森友貴(石川かほく) 谷内 一郎(おおぞら) 〈監査委員〉 丸山 充雄(加 賀) 山本 洋平(白 山)	(地域振興部) 事務局長 川本 幸進 (経営対策部) 事務局 笠井 優一
令和 元年	高本 祐輔 (白 山)	木内 達也 (小松市) 村井俊一郎 (根 上)	南出 俊介(加 賀) 北村 敬太(加 賀) 阿戸 大幸(小松市) 松岡登至也(能 美) ㊟中村 春樹(白 山) 西本 豊(松 任) ㊟東 由頼(松 任) 辻 哲典(金沢中央) ㊟正来 康志(金沢市) 西川 克一(金沢市) 和田森友貴(石川かほく) 谷内 一郎(おおぞら) 〈監査委員〉 村井 敬也(石川かほく) 寺口 直宏(白 山)	(J A グループ石川 営農戦略室) 事務局長 川本 幸進 事務局 武田健太郎

㊟：組織部長、㊟：農政部長、㊟：営農部長、㊟：文化部長、㊟：文化情報部長、㊟：地域交流部長、㊟：営農農政部長

年度	委員長	副委員長	委員・監査委員	事務局
2年	高本 祐輔 (白 山)	木内 達也 (小松市) 村井俊一郎 (根 上)	北村 敬太(加 賀) 坂本 泰毅(加 賀) 大音師 豊(小松市) 橋本 誠(能 美) ㊟中島 正一(白 山) ㊟東 由頼(松 任) 細川 雅人(松 任) 辻 哲典(金沢中央) ㊟正来 康志(金沢市) 長谷川憲正(金沢市) 渡辺 保之(石川かほく) 竹本健太郎(おおぞら) 〈監査委員〉 南出 俊介(加 賀) 中村 春樹(白 山)	(J Aグループ石川 営農戦略室) 事務局長 川本 幸進 事 務 局 武田健太郎
3年	高本 祐輔 (白 山)	大音師 豊 (小松市) 中島 正一 (白 山)	坂本 泰毅(加 賀) 向出 幸由(加 賀) 辻 徳和(小松市) ㊟村井俊一郎(根 上) 橋本 誠(能 美) ㊟細川 雅人(松 任) 上田 俊輔(松 任) 辻 哲典(金沢中央) ㊟長谷川憲正(金沢市) 中嶋 信男(金沢市) 渡辺 保之(石川かほく) 竹本健太郎(おおぞら) 〈監査委員〉 木内 達也(小松市) 正来 康志(金沢市)	(J Aグループ石川 営農戦略室) 事務局長 川本 幸進 事 務 局 武田健太郎
4年	高本 祐輔 (白 山)	大音師 豊 (小松市) 中島 正一 (白 山)	東 二千翔(加 賀) 向出 幸由(加 賀) ㊟辻 徳和(小松市) ㊟村井俊一郎(根 上) 中 道雄(能 美) 西本 豊(松 任) 上田 俊輔(松 任) 山崎 達郎(金沢中央) ㊟長谷川憲正(金沢市) 中嶋 信男(金沢市) 渡辺 保之(石川かほく) 竹本健太郎(おおぞら) 〈監査委員〉 細川 雅人(松 任) 辻 哲典(金沢中央)	(J Aグループ石川 営農戦略室) 事務局長 川本 幸進 事 務 局 武田健太郎
5年	高本 祐輔 (白 山)	大音師 豊 (小松市) 辻 徳和 (小松市)	東 二千翔(加 賀) ㊟村井俊一郎(根 上) 中 道雄(能 美) ㊟中島 正一(白 山) 西本 豊(松 任) 天井 徹(松 任) 山崎 達郎(金沢中央) ㊟長谷川憲正(金沢市) 吉本 真悟(金沢市) 渡辺 保之(石川かほく) 竹本健太郎(おおぞら) 〈監査委員〉 向出 幸由(加 賀) 上田 俊輔(松 任)	(J Aグループ石川 営農戦略室) 事務局長 川本 幸進 事 務 局 武田健太郎
6年	高本 祐輔 (白 山)	大音師 豊 (小松市) 吉本 真悟 (金沢市)	石本 和也(加 賀) 辻 徳和(小松市) 村井俊一郎(根 上) 浦出 和彦(能 美) ㊟中島 正一(白 山) 天井 徹(松 任) ㊟畑中健太郎(松 任) ㊟山崎 達郎(金沢中央) 西川 一也(金沢市) 渡辺 保之(石川かほく) 竹本健太郎(の と) 〈監査委員〉 西本 豊(松 任) 長谷川憲正(金沢市)	(J Aグループ石川 営農戦略室) 事務局長 川本 幸進 事 務 局 玉野 美湖
7年	高本 祐輔 (白 山)	大音師 豊 (小松市) 畑中健太郎 (松 任)	㊟石本 和也(加 賀) 滝口 和範(加 賀) 宮本 達也(小松市) ㊟村井俊一郎(根 上) 浦出 和彦(能 美) ㊟中島 正一(白 山) 東 尚平(松 任) 寺崎 純也(金沢中央) 西川 一也(金沢市) 竹野 茂樹(金沢市) 渡辺 保之(石川かほく) 竹本健太郎(の と) 〈監査委員〉 天井 徹(松 任) 吉本 真悟(金沢市)	(J Aグループ石川 営農戦略室) 事務局長 川本 幸進 事 務 局 玉野 美湖

㊟：組織部長、㊟：農政部長、㊟：営農部長、㊟：文化部長、㊟：文化情報部長、㊟：地域交流部長、㊟：営農農政部長

石川県農協青壮年部協議会規約

第1条 この協議会は、石川県農協青壮年部協議会（県青協）と称し、事務所を石川県農業協同組合中央会内に置く。

第2条 この協議会は、会員の連絡指導を行い、農協青壮年部組織の活動を強化し、もって農協運動の推進を図ることを目的とする。

第3条 この協議会の会員は、県下の単位農協青壮年部組織をもって構成する。

第4条 この協議会は第2条の目的を達成するため、下記の事項を行う。

1. 会員の連絡提携に関する事項
2. 農業協同組合運動の推進に関する事項
3. 農業経営及び技術の改善に関する事項
4. 農村の生活・文化向上に関する事項
5. 農政、調査研究に関する事項
6. その他、目的達成のため必要な事項

第5条 この協議会に最高議決機関として総会を置き、委員長がこれを招集する。通常総会は、毎年1回4月に開く。但し、委員会が必要と認めたとき、または代議員の3分の1以上が要求したとき、臨時総会を開催することができる。

第6条の1 総会は代議員制とし、代議員の半数以上が出席しなければ、議事を開き議決することはできない。

但し、前項に規定する代議員の出席がないときは委員長は20日以内に、更に総会を招集しなければならない。この場合には、前項の規定にかかわらず議事を開き、議決することができる。

第6条の2 代議員は単位農協青壮年部組織各2名とし、盟友数が100名をこえるものについては、100名につき1名ずつ増えるものとする。

第7条 総会の議事は、出席した代議員の議決権の過半数で、これを決し賛否同数のときは、議長が決するところによる。

第8条 代議員は、書面をもって議決権を行うことができる。

第9条 総会に附すべき事項は次の通りである。

1. 規約の設定、変更及び廃止
2. 事業報告及び収支決算
3. 事業計画及び収支予算
4. 会費の賦課並びに徴収方法
5. 役員の選出
6. その他重要事項

第10条 この協議会の役員は加盟単位農協青壮年部組織から選任された委員と監査委員をもって構成し、委員長1名、副委員長2名を委員の互選により、総会において選任する。

監査委員は、これとは別に2名を総会において選任する。

第10条の2 前項の委員の選任は、加盟単位農協青壮年部組織から1名以上を選任する。なお、盟友数が200名を超える組織にあつては2名以上を選任する。

第11条 委員長は本協議会を代表し、業務を統轄する。副委員長は委員長を補佐し、委員長事故あるときはこれを代理する。

委員は委員会を構成し、業務の執行に当る。

監査委員は会計および業務の監査に当る。

第12条 委員会が必要に応じて、委員長がこれを招集する。委員会は委員の半数以上の出席をもって成立し、議長は委員長がこれに当る。

第13条 役員の任期は1年とする。

但し、再選は妨げない。

役員は任期が満了しても後任者の就任するまで、その任に当るものとする。補欠により就任したものの任期は、前任者の残任期間とする。

第14条 本協議会への加入・脱退は、委員会において承認を得ることとし、未加盟単組加入については、年度途中からの参加を認める。

第15条 この協議会に顧問並びに参加を置くことができる。

顧問並びに参加は委員会において推薦し、総会の承認をうけるものとする。

第16条 この協議会の事務局を設け、事務局長、幹事若干名を置く。

事務局長、幹事は委員会の議を経て、委員長がこれを委嘱又は任免する。幹事は事務の処理に当る。

第17条 この協議会の経費は、会費、助成金、寄付金、その他の収入をあてる。

第18条 その他業務執行につき、必要事項は委員会に於いて決定する。

第19条 この協議会の事業年度は、毎年4月1日より翌年3月31日迄とする。

附 則

1. この規約は昭和31年8月3日より施行する。

(昭和32年4月17日一部改正)

(昭和33年4月3日一部改正)

(昭和35年4月12日一部改正)

(昭和36年4月14日一部改正)

(昭和39年4月21日一部改正)

(昭和40年4月22日一部改正)

(昭和49年4月13日一部改正)

(昭和51年4月14日一部改正)

(昭和52年4月15日一部改正)

(平成7年4月1日一部改正)

(平成11年4月3日一部改正)

(平成16年1月24日一部改正)

(平成17年4月9日一部改正)

(平成18年4月8日一部改正)

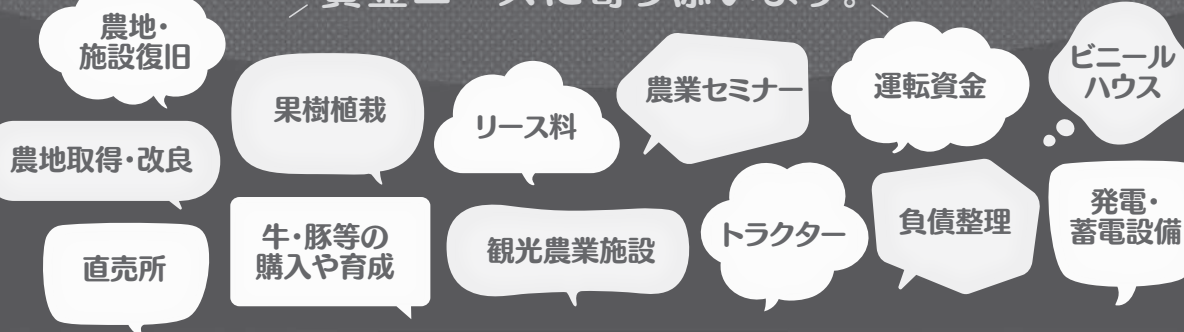
(平成24年4月7日一部改正)

(平成26年4月5日一部改正)

JAバンクはあなたの農業経営がより成長していくよう支援を行なっております。

JAバンクの 農業融資

JAバンクはあなたの
資金ニーズに寄り添います。



農業融資のことはJAバンク石川にお気軽にご相談ください!

JAバンク石川

全農 JA全農いしかわ

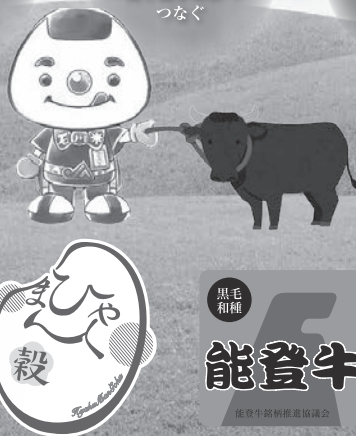
私たち JA全農グループは、
生産者と消費者を
安心して結ぶ懸け橋になります。

私たちは、農家組合員の皆さまの営農とくらしを支援し、
元氣な農業と地域活性化に取り組み、
安全で新鮮な国産農畜産物を消費者へ安定的にお届けしています。

生産者
営農・生活

JA全農
いしかわ
食と農を未来へ
つなぐ

消費者
安全・新鮮



JA全農いしかわは地産地消ならびに消費拡大を応援します。

能登牛専門焼肉店



コース（肉野菜は二人前）

7,700円



平日限定日替わりランチ

1,000円



能登牛プレミアムランチ

4,500円



住 所 / 金沢市此花町3-3ライブ1ビルB棟2階
(金沢駅東口より徒歩3分)

電 話 / 076-256-1129

定 休 日 / 不定休

営業時間 / ランチ 11:00～14:00 (LO 13:30)

ディナー 17:00～22:00 (LO 21:30)

能登牛焼肉弁当店

ひやくまんぞく亭 全農



能登牛焼きたてサーロイン重

3,380円



能登牛「肉寿司」5貫

1,280円



能登牛焼肉と2色そば弁当

1,680円



住 所 / 金沢市木ノ新保町1-1
金沢百番街「あん」と内

電 話 / 076-254-0129

営業時間 / 8:30～20:00

※表示価格は税込



「ひと・いえ・くるま」の総合保障で毎日の生活を支えます。

ひと ●終身共済 ●養老生命共済 ●定期生命共済 ●定期生命共済(通減期間設定型) ●引受緩和型終身共済 ●医療共済 ●引受緩和型医療共済
 ●がん共済 ●特定重度疾病共済 ●生活障害共済 ●認知症共済 ●介護共済 ●予定利率変動型年金共済 ●こども共済 ●傷害共済 など
 いえ ●建物更生共済 ●火災共済 など くるま ●自動車共済 ●自賠責共済 ●農業者向け ●農業者賠償責任共済

※ご加入にあたりましては、お近くのJAへお問い合わせください。どなたでもご相談いただけます。
 ■JA共済ホームページアドレス <https://www.ja-kyosai.or.jp>


はじめて共済   本サイトから
「ひと・いえ・くるま」
各共済の資料請求・
掛金試算ができます。

<https://shiryo.ja-kyosai.or.jp>

聞かせて! **くらしのこと**  アンケートに答えるだけで豪華賞品が当たるチャンス!

くらしの保障、相談するなら

 **JA共済**

耕そう、大地と地域の未来。  JAグループ

25481050027



地上
GOOD EARTH

12
December 2022
EXILE ŪSA
JA青年部創立70周年記念
農業プロフェッショナル
徳島県

農家経営に
役立つ情報

多様な農業者を
受け入れるヒント

読者参加型の
連載企画をより充実!



地上
GOOD EARTH

3
March 2023

教える! 農家のコスト削減術

時事に応じた
農業・農政の話題



地上
GOOD EARTH

11
November 2022

11月号・4月号は
農業・農政、JA・協同組合を学ぶ
大型特集掲載

2025年
8月号までの定価(税込) 9月号からの新定価(税込)

普通月号	618円	750円 ※毎号 統一価格
特別月号	680円	

JAグループ 家の光協会
〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11
TEL 03-3266-9039 <https://www.ienuhikari.net/>

お申し込みはお近くのJAへ

「食」と「農」 都市と農村 つなげる紙面

購読料
1カ月
(税込み)

本紙 3,100円

電子版 2,403円

●購読のお申し込みは **JA** へ



THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS
日本農業新聞
<https://www.agrinews.co.jp>

知る、活かす、つなぐ〜JAグループ情報共有運動



動画もあるから
分かりやすいね

全国の
農業の
情報が
たくさん

これまでの活動写真はコチラ



—協力団体—

JAバンク石川信連



JA全農いしかわ



JA共済連石川



JA石川県中央会



Choice! いしかわ産



(株)日本農業新聞



(一社)家の光協会



あ と が き

石川県農協青壮年部協議会は、昭和31年8月3日の創立以来、多くの先人のご尽力に支えられ、令和7年8月をもって設立70年の節目を迎えるに至りました。この歩みを記念し、令和7年度には記念事業を計画し、その中心事業の一つとして「70年史」の編纂を進めてまいりました。関係各位の温かいご支援とお力添えにより、ここに一冊の形としてまとめ上げることができましたことを、心よりお礼申し上げます。

編纂にあたりましては、県青協が積み重ねてきた70年の軌跡を確かな記録として残すとともに、今後のJ A青壮年部運動の発展に資する資料となるよう、最大限の努力をいたしました。とはいえ、皆様のご期待に十分お応えできているかどうか、いささか心許ない思いも抱いております。

また、歴代委員長をはじめ、執筆や資料提供に快くご協力くださった皆様に深く感謝申し上げます。「J A石川県青壮年部協議会設立50年記念誌 あゆみ～輝け盟友～」および「J A石川県青壮年部協議会設立60年記念史 つなぐ～時代が変わっても伝えたい～」を参考資料として使用させていただいた点につきましても、関係者の皆様のご理解を賜れば幸いです。

さらに、馳県知事、西川中央会会長、廣澤県女性協会会長より心温まるお祝いの言葉を頂戴いたしましたことに、厚くお礼申し上げます。

最後に、本史の刊行にあたり多大なるご支援をいただいた石川県農林水産部ならびにJ A石川県中央会、J Aバンク石川信連、J A全農いしかわ、J A共済連石川、(一社)家の光協会、(株)日本農業新聞の皆様に、改めて感謝の意を表します。

令和8年1月

石川県農協青壮年部協議会

県 委 員 一 同

設立70年記念事業実行委員会名簿

高 本 祐 輔 (委 員 長)
大音師 豊 (副委員長)
畑 中 健太郎 (副委員長)
石 本 和 也 (委 員)
滝 口 和 範 (委 員)
宮 本 達 也 (委 員)
村 井 俊一郎 (委 員)
浦 出 和 彦 (委 員)
中 島 正 一 (委 員)
東 尚 平 (委 員)
寺 崎 純 也 (委 員)
西 川 一 也 (委 員)
竹 野 茂 樹 (委 員)
渡 辺 保 之 (委 員)
竹 本 健太郎 (委 員)
天 井 徹 (監査委員)
吉 本 真 悟 (監査委員)

川 本 幸 進 (事務局長 J Aグループ石川営農戦略室)
玉 野 美 湖 (事 務 局 J Aグループ石川営農戦略室)

石川県農協青壮年部協議会設立70年記念史 受け継ぐ絆、耕す未来 ～仲間と育てる いしかわの食と農～

令和8年1月24日発行

発行／石川県農協青壮年部協議会
〒920-0383 石川県金沢市古府1丁目220番地
TEL 076-240-5052

印刷／(株)谷印刷

農業で日本を元気に!



 JA YOUTH